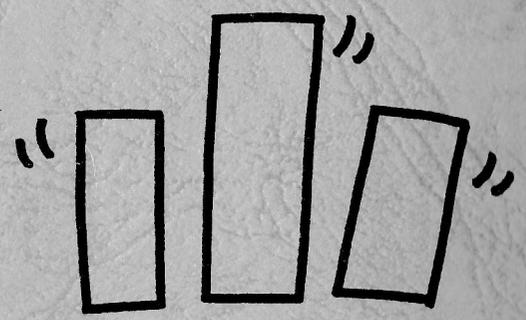


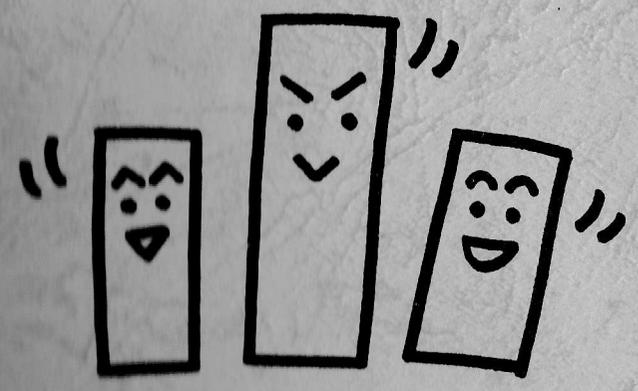
入間市生涯学習をすすめる市民の会 会報 ビーブル 第一号 一九九八

People 1998

入間市
生涯学習をすすめる
市民の会会報



のんびり行こうよ



目次

	1998年度事業報告	1
	1998年度決算報告	6
寄稿	中山智子 第2回埼玉県子どもの舞台祭を終えて	7
	大場 治 冒険遊び場全国研究集会に参加して	8
	永石珠江 地域の中で生まれる音楽の輪	9
	小笠原ひろこ FM入間「ふれあいサークルレポート」より	11
委員報告	山本和人 生涯学習活動とその支援のために	13
	庄 菊博 ヴォランティア情報の収集と管理について	17
	室山茂子 色々な形の生涯学習	24
	下野武司 『城西大学公開講座』について	25
	「旅」と「旅行」について	27
	杉山若江 言い出しっぺで有り難う	29
	長谷川正子 人間はボランティアが好き	31
	三浦はるみ 家庭教育講座に想う	32
	山尾聖子 H.10年度埼玉県ボランティア大会事例報告	33
	秋葉英夫 E.L.F.(エンジョイライフ-エフ) のすすめ	36
事務局報告	今井文香 第10回全国生涯学習フェスティバル 研究会議報告	37
1998年度事業参考資料		
	生涯学習情報紙 かがやく 縮刷版	44
	生涯学習フェスティバル資料	52
	参加団体一覧	54
	ミニ講演会概要 『女(ひと)と男(ひと)のパートナーシップ』	55
	『ぼけても普通に生きられる』	60
	公開ディスカッション概要 『家庭・学校・地域の連携』	64
	『夢のまちづくり』	66
	『かんきょう井戸端会議』 概要	72
	1999年度事業計画	76
	1999年度委員名簿および委員抱負	77

1. 生涯学習情報紙「かがやく」の企画・編集

第7号「子どものそだちを応援しよう 幼児・小学生編」10月15日発行
第8号「子どものそだちを応援しよう 中学生・高校生編」3月15日発行
委員以外のボランティアスタッフも関わり、多くの市民を巻き込むようにした。
紙面も学習成果の発表の場と考え、題字、写真、寄稿等多方面に呼び掛けている
関連団体を積極的に紹介
広報紙づくり講座の参加者が自ら講師やスタッフになれる体制をつくった。

2. 第4回いるま生涯学習フェスティバルの開催

過去最高の参加者数
市民企画のオープニングコンサート、ミニ講演会、ディスカッション等内容充実
100人以上のボランティアスタッフによる運営
多くの団体、個人の学習成果を確認する場となった
多くの企業・商店の協賛、大学との協力、団体参加が増える
行政内での協力体制が充実してきた

3. 行政側との話し合い

提言書の作成と提出
公民館職員部会との話し合い

4. 生涯学習情報の収集と提供

「入間市生涯学習サークル・教室一覧」編集発行
公民館への講師情報提供、FM入間・ケーブルテレビへ情報提供
講師紹介等のコーディネート事業
藤の台公民館、二本木公民館、金子公民館、中央公民館、
リサイクルプラザ、図書館、生涯学習フェスティバル、保育園、福祉施設等

5. 市民の会の整備・充実

会報発行
新委員募集
委員研修
生涯学習徹底追求研修会開催
NPOセミナーに参加
男女共生セミナーに参加
情報公開と個人情報保護についての学習会開催

6. 生涯学習啓発

ケーブルテレビスポット番組の制作と放映

7. 後援・協力事業

市民が主体となってすすめる生涯学習事業を積極的に応援した

家庭教育講座
グリーンジャズフェスティバル
彩・幸・祭
入間市文化創造プロジェクト
劇団スチャラカボン公演
入間男声合唱の集い 等

1998年度事業別活動記録

情報紙「かがやく」編集

6月25日	第7号企画会議	10月29日	第8号企画会議
7月7日	企画会議	11月19日	企画会議
7月25日	企画会議	12月3日	企画会議
8月3日	企画会議	12月17日	企画会議
8月11日	企画会議	1月13日	編集会議
8月28日	編集会議	1月28日	編集会議
9月2日	編集会議	2月1日	編集会議
9月3日	編集会議	2月4日	編集会議
9月4日	編集会議	2月6日	編集会議
9月7日	編集会議	2月8日	編集会議
9月8日	編集会議	2月8日	編集会議
9月9日	入稿	2月9日	入稿
9月17日	校正	2月18日	校正
9月18日	校正	2月19日	校正
9月22日	校正	2月25日	校正
9月24日	校正	3月2日	校正
9月29日	校正	3月16日	第8号発行・反省会
9月30日	校正		
10月14日	第7号発行・反省会		

情報収集

7月10日	公民館幹事会と打ち合わせ
8月30日	公民館幹事会と打ち合わせ
11月15日	公民館幹事会と打ち合わせ
12月25日	作業
1月14日	広報課打ち合わせ
1月26日	連絡会議
2月10日	連絡会議
2月26日	連絡会議
3月4日	連絡会議

生涯学習フェスティバル

6月3日	実行委員会	10月17日	スタッフ会議 かがやくスペシャル
6月19日	役員会	10月20日	役員会
6月23日	実行委員会②	10月27日	実行委員会⑩
7月14日	実行委員会③	11月5日	実行委員会⑫
7月28日	実行委員会④	11月5日	参加者説明会
8月11日	実行委員会⑤	11月13日	実行委員会⑬
8月25日	実行委員会⑥	11月16日	スタッフ会議 展示
9月4日	スタッフ会議 かがやくスペシャル	12月1日	作業・実行委員会⑭
9月11日	実行委員会⑦	12月2日	作業・打ち合わせ
9月21日	打合せ ミニ講演会	12月3日	作業・打ち合わせ
9月22日	実行委員会⑧	12月4日	作業・実行委員会⑮
9月25日	スタッフ会議 展示・PR	12月5日	準備、参加者交流会
9月30日	実行委員会⑨	12月6日	フェスティバル当日
10月3日	打合せ オープンコンサート	12月7日	片付け
10月5日	打合せ ミニ講演会	12月11日	反省会
10月13日	実行委員会⑩	2月3日	実行委員会⑯

研修

6月26日	生涯学習徹底追求研修
7月25日	日高市マイファミリーカレッジ見学
7月12日	NPO浦和セミナー
7月12日	NPO所沢セミナー
12月19日	NPO川越セミナー
2月11日	NPO入間セミナー
9月24日	個人情報保護について学習会
10月25日	埼玉県ボランティア大会
1月24日	入間市男女共生セミナー①
2月13日	入間市男女共生セミナー②
2月20日	国際女性フォーラムin彩の国
2月21日	国際女性フォーラムin彩の国
2月27日	入間市男女共生セミナー③
3月13日	入間市男女共生セミナー④
3月27日	入間市男女共生セミナー⑤

行政関係話し合い

- 5月 7日 提言書作成会議
- 5月12日 提言書作成会議
- 6月 1日 提言書提出
- 6月 4日 文化創造プロジェクト会議
- 6月26日 入間市観光協会総会
- 6月26日 生涯学習徹底追求研修
- 7月10日 公民館職員部会事前打合せ
- 7月15日 公民館職員部会意見交換会
- 7月27日 サカカブサカキボランティアスタッフ打合せ
- 8月 1日 繊維工業試験場跡地オープンワーク
- 9月 4日 公民館職員部会事前打合せ
- 9月16日 公民館職員部会意見交換会

市民の会運営

- | | |
|---------------|-----------------|
| 4月 2日 役員会 | 9月 2日 会計処理 |
| 4月 7日 幹事打ち合わせ | 9月 4日 定例会打ち合わせ |
| 4月16日 会計処理 | 9月 8日 定例会 |
| 4月16日 会計監査 | 10月20日 定例会 |
| 4月16日 役員会 | 11月10日 定例会 |
| 4月21日 定例会 | 12月26日 役員会 |
| 4月24日 幹事作業 | 12月26日 忘年会 |
| 4月28日 会報編集 | 1月11日 役員会 |
| 5月 7日 会報編集 | 1月19日 定例会 |
| 5月 8日 会報編集 | 1月26日 新委員候補者説明会 |
| 5月11日 会報編集 | 2月12日 定例会 |
| 5月19日 定例会 | 3月 9日 会計処理 |
| 6月16日 定例会 | 3月11日 役員会 |
| 7月 2日 会計処理 | 3月17日 定例会 |
| 7月21日 定例会 | |

広報紙づくり講座開催

- 6月 9日

ケーブルテレビ番組制作

- 10月 1日 企画会議
- 11月 ~ 試聴・放映

平成10年度入間市生涯学習をすすめる市民の会収支決算書

(収入)

(単位 円)

科 目	予 算 額	収 入 済 額	説 明
1 補 助 金	1,425,000	1,425,000	市補助金
2 繰 越 金	0	0	
3 寄 附 金	100,000	267,000	フェスティバル 協賛金等
4 諸 収 入	600	568	預金利子
合 計	1,525,600	1,692,568	

(支出)

科 目	予 算 額	支 出 済 額	説 明
1 総 務 費	270,000	250,160	
1 会 議 費	100,000	51,491	
2 事 務 費	20,000	74,919	封筒、名刺代等
3 備 品 費	100,000	99,750	ワープロ代
4 旅 費	10,000	4,000	
5 負 担 金	30,000	20,000	万燈わり、観光協会
6 諸 費	10,000	0	
2 事 業 費	1,250,000	1,399,484	
1 普及奨励費	100,000	100,000	ケーブルTV番組制作費
2 調査研究費	40,000	151,464	
3 事業活動費	890,000	1,125,023	生涯学習フェスティバル サカカブ教室情報誌編集費 会報製本代 がやぐ編集・講座開催等
4 研 修 費	220,000	22,997	NPOセミナー等
3 予 備 費	5,600	3,000	
合 計	1,525,600	1,652,644	

(収入) 1,692,568 - (支出) 1,652,644 = 39,924円
(平成11年度へ繰越し)

上記のとおり報告いたします。

平成11年4月20日

入間市生涯学習をすすめる市民の会 会長 松永輝義
会計 杉山若江

〔監査報告〕

平成10年度入間市生涯学習をすすめる市民の会収入支出決算について、去る4月19日
に關係諸帳簿及び關係書類を審査した結果いずれも適正であることを認め報告します。

監事 石川経造
" 関根栄一

第2回埼玉県子どもの舞台祭を終えて

第1回の芸術祭の反省を踏まえて、今回は地域の中で見たい、見せたい思いを大切に取り組んできました。98年6月から10月まで、8つの公演では延べ1897人の参加者、4つのワークショップでは275人の参加者がありました。

ひとりでは小さな力ですが、たくさんの方が集まることで、いろんなことを実現することができました。地域の学校や幼稚園、幼児園、保育園などの場所をお借りして、公演やワークショップなどができたことは、本当に良かったと思います。たくさんの方たちがつながっていくのが実感として感じられ、また、たくさんの方たちが子どもたちに生の舞台を見せたい、様々な体験をしてほしいと願っているのが感じられた芸術祭でもありました。

おやお劇場の会員だけでなく、会員外の人たちと共に実行委員会を作ることができ、地域の中で子どもたちが心豊かに育てほしい思いや、子どもとむきあうおとなの姿勢など、たくさんの方が話されました。おやお劇場は会を維持していくために、会員制でやっていますが、子どもたちをとりまく環境を考えていくのはおとな全員の責任だと思います。

おとなが地域の中で人とつながっていくことや、やりたいことを実現するために一生懸命とりくむ姿を、やがて次の世代を担う子どもたちにも、しっかりと見てほしいと思います。これからもさまざまな人たちとのふれあいやさまざまな体験を重ねて、子どもたちがより豊かに育つよう活動していきたいと思っています。

(人間おやお劇場事務局長)

冒険遊び場全国研究集会に参加して

昨年11月に開催された冒険遊び場全国研究集会(全国集会)に参加しました。そこには全国28都道府県から300名ほどの参加者が集まり、これから動きだそうとしている冒険遊び場づくりの大きなうねりを前にすごい熱気につつまれていました。

参加者は冒険遊び場をすでに運営している人やこれからつくろうとしている人などの住民、職場でたずさわっている人、行政の人、学生や大学の先生等、いろいろな立場の人たちです。

「自分の責任で自由に遊ぶ場を実現するため、住民は、行政は何ができるのか」をテーマに、いろいろ違った立場の人々が知恵を出し、話し合い、情報交換をしました。子ども達が「自分の責任で自由に遊ぶ」冒険遊び場を実現させたいと思う人々の願いは切実でした。

子どもにとって遊びとは生きる力の源です。遊びの中で子どもは創造し、自然とふれ合い、多くの仲間と関わり合いながら社会性を身につけ、自己を確立していきます。

子どもがより良く育つには遊びは不可欠だと思います。

この全国集会は文部省「子どもの『心の教育』全国アクションプラン」委嘱事業として、IPA(子どもの遊ぶ権利のための国際協会)日本支部主催で実現しました。私も実行委員会から参加しましたが、そこで感じた事は参加女性たちのあふれんばかりのパワーです。事前に何度も開かれた本部実行委員会には幼な児の手をひいて多くの母親たちが参加し、世田谷で2度開かれた全国実行委員会にも、仙台、大阪、高知、熊本などから度々出席する女性たちがいて準備も進み、盛り上がる中当日を迎えました。そのパワーの源は、子どもが思いっきり遊べる遊び場をつくりたい、今の、そして未来の子どもたちが育つ環境をより良くしたい、という思いで一致していると思います。

全国集会が終わった後、文部省、建設省合同で、冒険遊び場を視野に入れた委員会が設置され、国レベルでも動き出した感があります。私も含め5名が参加した人間遊び場づくり協会でも、子どもが日常的に溜まれる、子の居場所になる遊び場づくりを具体的に行動しようと心を新たにしました。

(人間遊び場づくり協会会長)

地域の中で生まれる音楽の輪

日頃から地域で仲間を作り「ぬれ落葉」と呼ばれないように何かを少しずつ始めようと、平成7年11月に80名の参加者を得てフルート演奏会を第1回目として「東町で音楽を楽しむ会」はスタートした。誰もが比較的集まりやすいということで音楽を聴きながら仲間を広げるとい目標に、ソプラノ・ピアノ・弦楽四重奏・マリンバ・テノール・バイオリンなどこれまで演奏者にも恵まれ、東町公民館改築後には、140名、180名など、回を重ねるごとに参加者がふえていった。

公民館のように近くの場所で生の演奏が聴けるということで口コミで広がっていったこの会も、スタートの時点でははたしてどのくらい集まるだろうかと私たちに不安があった。1回、2回と進む中で、改装のため中央公民館や久保稲荷公民館をお借りして、音楽会も移動して続けてきた。特に久保稲荷公民館ではグランドピアノと広い会場ということもあって、平成8年クリスマスに行ったコンサートでは200名を越えるこれまで最高の大コンサートとなった。このコンサートで、ピアニストのレベルもさることながら、やはりグランドピアノのすばらしさにすっかり魅了され、東町にもぜひということから、何とかこの会でまたまた希望を持つことになっていった。夏まつり、万燈まつりでのバザー、平成9年秋に行った産文センターでのコンサートの収益などで、ついに中古ではあるがグランドピアノを公民館に贈らせていただいた。

また平成11年4月に行われた「チェルノブイリチャリティーコンサート」では、チェルノブイリの子供たちを呼ぶ会、地域のコーラスグループと共に、この会のスタッフの活動のもとに市民会館をほぼ満席にするまでになった。80名参加の第一回目にはここまで考えてもみなかったことである。

予算不足でポスターを作ることができない私たちにとって、一度来てくださった方が次の回にはまたどなたか誘ってきてくださることが本当に援助になっている。心から感謝すると同時にこのことは私たちスタッフにとって次のことへのエネルギー源になっていることをお伝えしたい。

仲間づくりを目標に掲げるこの会では、音楽を聴くことだけでなくお互いに知り合うきっかけをということで毎回コンサートの休憩時間40分ほどをティータイムと称してワインと少々のおつまみ、手作りのケーキ、コーヒーなどを囲み歓談の場を設けている。時には演奏者も交えての楽しいひとときであ

る。

また幅広く学習をということでは、市在住画家のご指導のもとにバスでの美術館めぐりをはじめ、博物館アリットの茶室でお茶会、講演会なども行ってきた。新聞などでよく目にする「生涯学習」ということにもつながっていくのではないだろうか。分野を変えることでまた新しい仲間の参加も得られてきた。

「次は何をしようか」と毎回スタッフで話し合ってきたこの会も今では「こんな方を知っています。ぜひ次回の演奏会に紹介させてください」と申し出もあり、私たちスタッフ一同感謝すると共に、今後も楽しく活動させていただきたいと心から願っている。

(東町で音楽を楽しむ会運営スタッフ)



寄贈したグランドピアノの前に

FM入間『ふれあいサークルレポート』より

二年間にわたりFM入間において毎日曜の朝「ふれあいサークルレポート」を放送できたことは大きな喜びでした。いろいろなサークル活動を通じ、表現する喜び、集う喜び、そして上達し向上していくという人生の楽しさがサークルごとに道は違っても、共感を感じることができたと思うのです。皆、一生懸命な仲間だと、そしてその仲間の数はとても多いのだと実感しました。また再び放送を通して、大きなサークルの輪を広げていきたいと思っております。

FM入間「ふれあいサークルレポート」で取材したサークル

放送日	活動内容	サークル名	活動場所
97. 4. 6	社交ダンス	木曜ダンスクラブ	高倉公民館
97. 4. 20	民謡	さくら会	黒須公民館
97. 5. 11	体操	マイ体操	宮寺公民館
97. 5. 25	カラオケ	扇町屋カラオケ愛好会	扇町屋公民館
97. 6. 8	大正琴	やわらぎの会	二本木公民館
97. 6. 22	中国語	中国語サークル	西武公民館
97. 7. 6	フラダンス	ルアナ	黒須公民館
97. 7. 20	大正琴	むつみ会	東金子公民館
97. 8. 3	児童合唱	さくら草	藤沢公民館
97. 8. 17	児童英語	キャロット	東町公民館
97. 10. 5	囃子	二本木はやし保存会	二本木公民館
97. 10. 19	囃子	高倉郷土芸能保存会	高倉公民館
97. 11. 9	フランス語	トワ・エ・モワ	藤の台公民館
97. 12. 14	尺八	尺八現代吹奏会	西武公民館
98. 1. 11	琉球舞踊	朝絵の会	東藤沢公民館
98. 1. 25	入間市かるた	郷土かるた	児童館
98. 2. 15	英語	黒須ESS	黒須公民館
98. 3. 8	源氏物語を読む会	一木会	藤の台公民館
98. 3. 22	童謡	東町童謡の会	東町公民館
98. 4. 12	アレンジメントフラワー	アレンジメントフラワー	久保稲荷公民館

98. 5. 24	女声コーラス	むさしの合唱団	藤沢公民館
98. 6. 14	ハーブ	ハーブを楽しむ会	藤沢公民館
98. 6. 28	スクエアダンス	入間スマイルスクエアズ	久保稲荷公民館
98. 7. 26	人形劇	人形劇団・クスクサパー	金子公民館
98. 10. 11	女声コーラス	入間台コーラス	入間台自治会
98. 11. 8	三味線	扇三味線の会	扇町屋公民館
99. 1. 31	フラダンス	ドゥ・ザ・フラ	東藤沢公民館
99. 2. 14	女声コーラス	りらの会	藤沢公民館
97. 4. 13	ジャズダンス	クールジャギー	久保稲荷公民館
97. 4. 27	童謡	青い鳥	久保稲荷公民館
97. 5. 18	ハーモニカ	藤の台ハーモニカサークル	藤の台公民館
97. 6. 1	かっぽれ	入間かっぽれ愛好会	久保稲荷公民館
97. 6. 15	和太鼓	親太鼓	こどもの国保育園
97. 6. 29	民謡	東町民謡愛好会	東町公民館
97. 7. 13	クラシックギター	あんだんて	東藤沢公民館
97. 7. 27	クラシックバレエ	トゥインクルバレエ	高倉公民館
97. 8. 10	卓球	親子卓球	東金子公民館
97. 8. 24	民踊	黒須民踊会	黒須公民館
97. 9. 14	アコーディオン	宮寺アコーディオンサークル	宮寺公民館
97. 10. 12	ジャズ	ヘルタースケルター	久保稲荷公民館
97. 11. 2	男声コーラス	コールゾイファー	扇町屋公民館
97. 11. 30	琴	箏曲サークル	藤沢公民館
97. 12. 28	作法・マナー	なでしこ会	西武公民館
98. 1. 18	人形劇	SHOW劇団メッケ	藤沢公民館
98. 2. 1	男の料理	十八番倶楽部	藤の台公民館
98. 2. 22	映画	入間映画愛好会	図書館西武分館
98. 3. 15	囲碁	レディース囲碁サークル	東金子公民館
98. 4. 5	フォークダンス	チロルフォークダンス	東藤沢公民館
98. 4. 26	親子ミュージカル	ミュージカル・レインボー	東金子公民館
98. 5. 31	詩吟	白水会	東藤沢公民館
98. 6. 21	クラシックギター	ソ・トロボ・ビルメン	藤沢
98. 7. 12	現代劇	入間市民劇団	西武分館
98. 8. 16	朗読	朗読ボランティアグループはづき	図書館
98. 10. 18	おんな神輿	委瑠磨神輿・紅	藤の台公民館

生涯学習の活動とその支援のために — 今必要なこと —

1 「振興法」には定義がない

生涯学習の支援・振興を図る法律ができています。知っている方は多いはずですが、それは『生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律』（平成2年6月29日法律第71号）、いわゆる「生涯学習振興法」です。

国の臨時教育審議会が生涯学習社会への移行を打ち出したときから、日本は生涯学習社会へ進み始めたといえるでしょう。それを表す大きな一つとしてこの法律をあげることができます。

しかし、この「生涯学習振興法」には、生涯学習の振興を図ることがうたわれてはいるものの、「生涯学習の定義」がありません。ですから少々厄介なことになりました。

2 俗説としての生涯学習

私たちはずっと以前から、いわゆる「生涯学習」の活動を行って来ているとも言えます。今日の「生涯学習」ということばを知らなくても、それに類する活動は行って来ていました。ですから、「そんなこと今更いわれなくとも…」などとお考えの方もまた、多いはずですが。

「私のおじいさんは一生学んでいた人だ…」という人もいますでしょう。「私は、生き方として、世の中のいろいろな人から、いつでも学んでいる。それは生涯続けるものだ…。それが生涯学習だ」、という人もいますでしょう。

3 整備している生涯学習体系と国の考え

ですが、そのような「生涯学習」の考え方は、今日の「生涯学習の概念」とやや異なっているといえます。それは次のような点を考えると明らかです。

(1) 生涯学習の定義

一つは、よく言われるようになった生涯学習の概念がいかなるものであるかということです。それは国の生涯学習審議会答申の言葉を借りれば、はっきりすると思います。平成2年1月にされた中央教育審議会答申「生涯学習の基盤整備について」の考えを踏襲して、生涯学習とは、次のように理解されるものであるとしています。「①生涯学習は、生活の向上、職業上の能力の向上や

自己の充実を目指し、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであること。②生涯学習は、必要に応じ、可能な限り自己に適した手段及び方法を自ら選びながら、生涯を通じて行うものであること。③生涯学習は、学校や社会の中で意図的・組織的な学習活動として行われるだけでなく、人々のスポーツ活動、文化活動、趣味、リクリエーション活動、ボランティア活動などの中でも行われるものであること。」というものです。「このようなものでなければならない」、とは述べていませんが、概念を明確にする上では重要でしょう。

(2) 生涯教育との関係

その上で、次に大切なことは、「生涯教育」という概念とのかかわりです。生涯学習は生涯教育と切り離せない面があるということです。

今日の生涯教育の概念・理念が出された社会的背景は、大きく3つあるといわれています。

①新しい社会生活、職業生活、家庭生活への適応能力や創造的能力の育成という社会的要請及び個人的必要。

②生きがい欲求・自己実現欲求の高まり。

③学校教育、さらには教育の全体系までも根本的に改革可能な教育原理の待望。

生涯教育はさまざまな期待が込められて提案された理念・アイデアです。日本的に表現すれば、急激に変化する社会が求められる（必要とする）教育を目指して、家庭教育、学校教育、社会教育その他すべての教育機会を総合的な観点でとらえ、それを改革する原理としての提案であったわけです。ですから、生涯学習は生涯教育と表裏一体と考えるべきでしょう。

(3) 公教育としての「生涯教育」

特にこうした理念がユネスコから出される中で、「公教育」としての要素が強く出されたのが、「生涯教育」の概念でした。

日本では生涯教育の概念については、臨時教育審議会以来、「生涯学習が行えるような環境・条件の整備をすることが生涯教育である」と理解されています。ですから、条件整備はしなければならないものです。と同時に、生涯教育・生涯学習の活動は、個人的な努力で行う活動ではなく、社会の中で、（公教育として）制度的に用意された教育機会・学習機会の中で行われるものであることも意味します。

4 定義がない理由と課題

「生涯教育は定義がない」といいましたが、それは何を生涯学習ととらえるか、何を生涯学習の支援と考えるかは、行政にまかされていることでもあるということです。条件整備は行政、自治体の課題なのですから。

とはいうものの、どのような条件整備が必要なのでしょう。教育行政の課題として、また、日本のシステム・制度としての問題を考えると、いろいろなところでいわれていますし、私自自身も何度も述べている3つのサブシステムの必要性があげられます。詳しくは述べませんが、①学習機会の選択援助、②学習機会の提供、③学習成果の評価・活用、を支援する仕組みです。

すなわち、それは生涯教育の条件を整えるということなのであって、繰り返せば、それは国及び都道府県を中心とした自治体の努力を必要とする部分なのです。

上のような事情から、何を生涯学習とするかは定義次第ということになります。「今日的な」という修飾語がつくのも、また、「フuzzy概念である」と言われるものの、先に見た「人生哲学」としての生涯学習などは異なるものなのです。

そして、繰り返しますが、生涯学習の何をどのように支援するかは、自治体の努力ということになります。その際に、どこまでを射程に入れて整備をするかという問題が残ります。

また、市民の会との関わりでいえば、人間市の生涯学習プランにあるように行政と協力しあって人間市民の生涯学習の支援をしていかなければならないでしょう。そこに生きる人間に生涯学習の支援・制度が役に立たなくては意味がないからです。

国全体のレベルでの問題を考えてもまた、自治体レベルの問題を考えても、生涯学習をどう支援するかということが大きな問題となっています。そしてそれは、明らかに制度改革へつながっています。社会人が入ろうと思えば、少し前に比べても格段にアプローチしやすくなっていますし、大学公開講座は実施していて当たり前といわれるような現在です。国民・地域住民にPRする時期は過ぎたといえるでしょう。地味ながらも、実質的な生涯学習活動が進められなければならないでしょう。大学のみならず、社会的経験のある教員は学校で求められていますし、中学校の部活動へ市民指導者が関わることも最早珍しくなくなっています。

5 多くの自治体では、教育行政だけの問題としているが

もう一つ大切なことは、生涯学習は、教育行政だけの問題ではないということです。

終身雇用の変化、年功序列の崩壊、不況の中での転職・能力開発などの問題も、実は生涯学習と密接に関係しているのです。不況の沼からなかなか出られずにいる日本の経済・産業ですが、労働省は「教育訓練給付制度」を設け、国が学費の80%を援助してくれます。4000種を超えるといわれている給付対象の講座等について、連携を取り合って、情報提供することも重要なことでしょう。そうした働く人々の技術の向上や、資格取得などの活動は、重要な生涯学習の活動ですし、援助の対象でなければなりません。

その他、高齢者が生き生きと健康でいられるための活動支援、安心して子育てが行えるための支援等々、それらもちろん生涯学習支援と切り離すことはできないのです。

どこまで目配りができるか、どこまで協力・連携できるかは自治体の力量にかかっているでしょう。

終わりに

活動の条件を整えるということは、予算だけの問題ではなく、グループやサークルを増やしたり、施設を増やすことだけでなく、システムを整備する問題でもあることを理解していただけたでしょうか。

団体の活動が滞りなく続けられるように支援することだけでなく、あたらしい活動団体や、あらたな個人、活動家が生まれてくることももちろん大切でしょう。さらに、自ら活動していた内容が、生涯学習の活動であることを認識してもらい、システムとかかわりをもつようにすることも必要でしょう。

最後に一言。市民の会の私たち自身が、何を生涯学習の活動と考えるかを定義してみようでしょうか。これまでの社会教育活動と差のない活動に限定されてしまうのでは、再考する必要があるでしょう。

ボランティア情報の収集と管理について

1 入間市生涯学習元年

入間市では、平成8年に入間市生涯学習推進計画「いま生涯学習プラン21」（以下、これを推進計画という。）が作成されており、これをもって、入間市は生涯学習の本格的な出発点を迎えたといえる。当該推進計画は、平成16年度（9年後）を完成年度としており、すでに3年が経過している。この間、当該推進計画に基づいて生涯学習に関する具体的な施策が実行されてきたところではあるが、そこでは、ボランティア情報を収集し、その後、それを管理することについて幾つかの疑問が提示され、あるいは懸念が持たれている。そこで、以下では、当該推進計画の作成に参画した者の一人として、また、入間市生涯学習をすすめる市民の会の協力会員として、この問題について、若干の検討をなし、もって、この問題について議論する一つの資料を提供したいと考える。なお、以下における見解は、あくまでも私見に留まることを予めお断りしておきたい。

2 ボランティアの重要性

推進計画においては、指導者、ボランティアの養成と活用について、「生涯学習を推進する関係職員や各分野における指導者、ボランティアなどの身近な人材の発掘や養成、活用を図るとともに、その活動への支援や研修の機会を整備するなど、市民の生涯学習活動の促進に努めていきます」と述べられており、（推進計画31頁参照）、生涯学習が推進されるためには、ボランティアが必要不可欠であることが明示されている。

3 ボランティア情報の収集・管理への養成

生涯学習が推進されるためには、市民が生涯学習に関する情報を容易かつ的確に習得できることが必要とされるが、その前段階においては、市民に提供すべき種々の学習情報を収集・管理することが不可欠とされる。この点、推進計画においては、学習情報システムの整備について、「市民の主体的な学習活動

を支援するためには、個人や生涯学習関連施設が持っている学習機会、施設、団体やグループ、指導者やボランティア、教材などに関する多様な学習情報を収集、整理し、生涯学習情報として総合的に提供することができるよう、学習情報のデータベース化を進め、生涯学習を支援する「学習情報システム」として整備を行います」と述べられており（推進計画29頁参照）、そのような学習情報の一つとして、ボランティアに関する情報を収集し、それを管理することの重要性が明示されている。

4 推進組織

生涯学習を推進する組織として、推進計画においては、生涯学習の推進体制の整備・充実について、「生涯学習に関する施策の総合的かつ効果的な推進を図るため、庁内に設置した「入間市生涯学習推進会議」及び「入間市生涯学習庁内連絡会議」の機能を充実するとともに職員一人ひとりが生涯学習の視点に立って、関連事業を展開することができるよう、生涯学習に関する担当部課を中心に、関係課及び関係施設などとの横断的な連携体制の充実に努めます。」と述べられており、（推進計画36頁参照）、まずは、庁内における「入間市生涯学習庁内推進会議」（以下、これを庁内推進会議という。）及び「入間市生涯学習庁内連絡会議」（以下、これを庁内連絡会議という。）がある。

そして、庁内推進会議についての、「入間市生涯学習推進会議設置要綱」（以下、これを推進会議設置要綱という。）によれば、推進会議の所掌事務の一つとして、その他生涯学習の推進に関すること（推進会議設置要綱2条3項）が規定されている。そして、ボランティア情報の収集・管理は、生涯学習を推進することの不可欠の要素とされることから、庁内推進会議がこのことについて権限を有するものと判断され得る。庁内連絡会議についても、その所掌事務として、庁内推進会議が指示する事項に関すること（推進会議設置要綱5条3項）が規定されているために、庁内連絡会議が庁内推進会議の下部・事務レベル組織として、後者の指示に基づき、ボランティア情報の収集・管理を行い得ることは当然とされる。さらに、その所掌事務として、その生涯学習の推進に関すること（推進会議設置要綱5条4項）が規定されているために、たとえ、庁内推進会議の指示がなされていない場合であっても、独自に、このことについての権限を有するものと判断され得る。

また、推進計画においては、「市民側の組織である「入間市生涯学習をすす

める市民の会」の一層の充実を促進するとともに、市内の推進組織との連携・協力により、市民の生涯にわたる多様な学習活動を積極的に支援することができるよう、生涯学習の推進体制の整備・充実を図ります」と述べられおり（推進計画36頁参照）、「入間市生涯学習をすすめる市民の会」（以下、これを市民の会という。）が、生涯学習の推進組織の一つとして承認されている。そして、市民の会の規約である「入間市生涯学習をすすめる市民の会規約」（以下、これを市民の会規約という。）によれば、市民の会は、市側の推進組織と連携・協力を図りながら、生涯学習の推進に寄与するを目的としており（市民の会規約2条）、その目的を達成するための事業として、生涯学習の実践活動に関することを行うことができる（同3条1号）。ボランティア情報の収集・管理も、生涯学習に関する実践活動の一つとして考えられるので、市民の会も、これを行うことができると判断され得る。

5 情報の集約機関

生涯学習を推進するためには、生涯学習に関する情報を効果的に集約し提供する機関が必要とされる。これは、ボランティア情報の収集・管理にも妥当する。この点、推進計画は、生涯学習の拠点となる施設の整備として、「市民の生涯学習を支援する学習情報システムを有効なものとして機能させるため、学習情報センター機能、生涯学習施設のネットワーク機能などを持った市民の生涯学習活動を総合的に支える中心的施設として、「生涯学習センター」の建設を計画的に進めます」と述べており（推進計画35頁参照）、将来的に、「生涯学習センター」が建設されることになれば、ボランティア情報の収集・管理もこのセンター施設によってなされるが適切とされる。しかし、このようなセンター施設が存在しない現在においては、現存する種々の生涯学習施設を介して、ボランティア情報を収集することは可能とされても、収集された情報の安全管理及び効果的な提供という側面が考慮されるならば、情報は最終的には一元化されること、換言するならば、一つの機関に集約されるべきものと判断され得る。そして、このような集約機関としては、その所掌事務、情報の総合的、保全的かつ機能的な管理面、さらには部課の名称よりして、現在のところ、入間市教育委員会生涯学習部生涯学習課が最適な機関として判断し得る。

6 市における既得情報の取扱

市においては、すでに各部課及び職員個人単位において、職務上、これまで種々のボランティア情報を収集・取得している場合が多い。

入間市情報公開条例（以下、これを公開条例という。）によれば、情報とは、「実施機関の職員が職務上作成し、又は習得した文書、図画、写真及びマイクロフィルム（磁気テープその他これに類するものから出力又は採録されたものを含む。）であって、決裁、供覧等の手続が終了し、実施機関において管理しているもの（以下「公文書」という。）に記録された情報をいう」（公開条例2条2号）。そして、かかる情報については、開示されることが原則とされる（公開条例6条）。しかし、公開条例には、情報の開示が制限される例外的な場合が規定されている。すなわち、「個人に関する情報（事業を含む個人の当該事業に関する情報を除く。）であって、特定の個人が識別され、又は、識別され得るもの」は開示され得ない（公開条例6条1号）。これにはさらに例外が存在し、たとえ個人情報であっても、「公表することを目的として作成し、又は取得した情報」は開示の対象とされる。（公開条例6条1号イ）。

したがって、既得の個人ボランティア情報は、原則として非公開とされるが、それが公表することを目的として作成され、または取得されたものであり、かつ、それが公文書等の記録されているものであれば、例外的に開示の対象とされる。たとえば、講演会や演劇等のポスター上に記載された個人情報で、これが公文書として保管されている場合が、このような例外に該当するものと判断し得る。

また、市の各部課における既得情報を生涯学習課に提供することは、後述するように（7④参照）、その提供が目的外利用に該当する場合には、市長への事前届出が必要とされる。なお、市の各部課が情報の提供についての努力義務を負っていることは推進計画より明らかである（推進計画36頁）。

7 新たな情報の収集

ここでは、新たに個人のボランティア情報を収集するに際しての留意点が問題とされるが、それについては、かかる情報の収集主体別に考察することができる。すなわち、まずは、市の生涯学習課が収集する場合である。入間市個人情報保護条例（以下、これを保護条例という。）によれば、市の生涯学習課が個人情報を収集等する場合には、種々の制限に服さなければならない。そして、これに関する制限は、一般的制限、届出制の採用、収集方法の制限、利用

の制限及び提供の制限より構成される。

①一般的制限

収集は、その所掌する事務の目的達成に必要な範囲内でなければならない（保護条例6条）。

収集の内容は、基本的人権を侵害するものであってはならない（保護条例7条）。

②届出側の採用

収集に関しては、事前に所定の事項（目的、対象者、内容等〔保護条例8条1項〕、後述する個人情報管理責任者〔同条例11条〕）を市長に届けねばならない（保護条例8条）。

③収集方法の制限

収集は、個人の同意がある場合等を除き、収集目的を明らかにして、本人から直接収集しなければならない（保護条例9条）。

④利用の制限

収集した情報は、本人の同意等があり、かつその旨の市長への事前届出がなければ、収集目的を超えて利用してはならない（保護条例10条1項・3項）。

⑤提供の制限

収集した情報は、本人の同意等があり、かつ、その旨の市長への事前届出がなければ、実施機関以外のものに情報を提供してはならない（保護条例10条2項・3項）。これにより、市民の会が、生涯学習課より情報の提供を受ける場合は、この外部提供に該当すると考えられるために、それ相応の手続きが必要とされる。

つぎに、市民の会が収集する場合である。保護条例によれば、事業者は、個人情報の収集をするときは、個人情報の保護に関する市の施策について協力義務を負う（保護条例5条）。ここで、事業者とは、法人その他の団体（国及び地方公共団体を除く。）及び事業を営む個人として定義され（保護条例2条3号）、業種、営利目的の有無、事業所の所在地等にかかわらず、広く一般の事業活動、営業活動を行っているものすべてを総称するものと理解される。また、市民の会は、市から恒常的な財政援助を受けている団体であるとともに市における生涯学習施策の推進団体である。このことから、保護条例の趣旨に鑑み、市民の会が市の施策に協力する義務を負うことは当然であり、当該協力義務の内容は、通常の事業者としてよりは、市の実施機関に準じて取り扱うことが適切とされる。したがって、情報の収集についても、市の実施機関に準じた手続

が必要とされると判断され得る。

なお、このようにして、市民の会が情報を収集する場合には実施機関に準じた取扱をなし、市民の会が生涯学習課より情報の提供を受ける場合には実施機関以外の団体として取り扱うことは、一見すると、論理的に矛盾するものと思われるかの知れない。しかし、このような取扱は、最終的には市民の利益、換言するならば、市民の基本的人権の擁護に資するものであって（保護条例1条）、是認されるべきものとする。

8 情報の管理

市の生涯学習課によって収集された個人情報は、個人情報管理責任者（生涯学習課の場合は同課課長）の指導と責任のもと、適正に管理されなければならない（保護条例11条）。具体的には、その情報は正確かつ最新のものでされ（保護条例11条1号）、情報に関する漏洩、改ざん、滅失、毀損その他の事故が防止され（同条2号）、不必要となった情報は廃棄または消去（同条3号）されなければならない。さらに、情報のコンピューター処理に伴い、個人情報を実施機関以外のコンピューター組織と結合して処理しようとする場合には、予め、審議会の意見を聴き、その旨が市長に届けられなければならない（保護条例12条）。このような管理は、実施機関に準じて取り扱われる市民の会についても適用されるものと判断し得る。

9 今後の措置についての提言

ヴォランティア情報の収集と管理については、以上のような検討結果になるのであるが、これを受けて、差し当たり、必要とされる措置について若干の提言をなしておくことにしたい。すなわち、

①市民の会と生涯学習施設の一つである公民館の職員との間では、各種の事業や会合を通しての意見交換が行われており、本問題についても、それなりの成果を見ている。しかし、入間市における生涯学習の推進組織として、市側においては庁内推進会議があり、生涯学習に推進については、当該会議と市民の会との連携・協力が不可欠の要素とされる。したがって、今後、生涯学習課を窓口又は仲介者として、当該会議と市民の会とが会合を持ち、本問題を含めて、生涯学習施策の具体的な展開について協議することが必要とされる。

②ヴォランティア情報の収集等については、条例との関係上、各種の届出等が必要とされるが、そのような書式について、早急に検討・作成することが必要とされる。その際、県による該当書式が一つに参考になると思われる。

③ヴォランティア情報の効果的な利用として、ヴォランティアの資質が問題とされる場合があるが、この点については、本人の同意を得ながら、本人の資格、経歴、実績等を明らかにする手段が講じられるならば解決されるものと思われる。

④ヴォランティアについての既得情報については、本人に対して情報の内容を通知するとともに、目的外使用や外部提供についても、予めの同意を得ておくことが賢明の策であると思われる。

⑤今後、新たにヴォランティア情報を収集する場合には、まずは、人間市民、人間在勤・在学者を対象として、これにかかわる情報の中核を構築し、それを広域行政圏に拡大することが実際的かつ効果的であると思われる。そして、具体的な情報の収集方法としては、ヴォランティア情報の提供についての書式用紙を作成し、それを市民に配布するか、市民が容易に入手できるようにすることが考えられる。



第4回いるま生涯学習フェスティバル風景



童謡連盟の皆さんによるコーラス

いろいろな形の生涯学習

花火大会の日、両国駅は浴衣姿で下りる人で華やかだ。その人を横目にガラソンとした電車でもうひと駅、私は隣駅の大ホールで開かれたベートーベンの第九番合唱のコンサートを聴きにいった。社会人で成る小さな交響楽団が第九をやりたいという夢を話あって実現するまで10年を要したとパンフに一言。そして合奏、合唱共に日々の仕事の合間の練習。団員の人々の今日の喜びはさぞやと思い、見回すと3階席まで満員だ。

……ひとつの音楽を演奏合唱する目的で集まった大勢の人の生涯学習……

演奏が始まった。すばらしい第九に感動の中、ふとある映画でみたベートーベンの姿を思い出した。それは、耳に障害がおきはじめた彼はピアノの音を聴く為に床にピアノの鍵盤が近くなるように置き、腹這いになって耳を床にあて、不自然な体の位置でピアノに手を置き、床から伝わる音の振動を確かめながら作曲をする、と言うすさまじい姿だ。映画を離れても、耳に障害のある彼が多くの名曲を残し、世界中の人を今も魅了している。

……人の一生は生涯学習というけれど、天才作曲者に生涯学習という

言葉は似合うだろうか。そんな生易しくはないと思った。……

ソリスト4人と指揮者は日本でも一流といわれる人々、ソリストは不思議なほどに大きく見えその朗々とした歌声はそれからしばらく耳にのこった。

……すばらしい音楽に魅せられプロとして活躍する人の生涯学習。……

聴衆……すばらしい音楽を聴き感動を持ちかえた人々の生涯学習。……

ひとつのコンサートを通し色々な形の生涯学習をすこし無理をしてあてはめてみた。

『城西大学公開講座』について

城西大学は創立34年目で、経済、理学、薬学の3学部及び女子短期大学部を含めて、学生数は約9500人の大学で、千葉県東金市にある城西国際大学も、最近、日本で初めての「女性学専攻」の大学院を開設するなど注目を集めている姉妹校です。城西大学は、東武東上線の坂戸駅とJR八高線の越生駅を結ぶ東武越生線の川角駅から徒歩7分のところにあり、入間市民には比較的馴染みの薄い大学だったのではないかと思います。車で30分の場所にあり、『公開講座』をはじめ、『エクステンション講座』等の近隣市民への開放講座も行っていますので是非とも足を運んで頂きたいと思えます。エクステンション講座も毎年2500人以上の聴講生を集めて実施しています。

『城西大学公開講座』は、毎年、城西大学および埼玉県教育委員会が主催し、坂戸市をはじめ、川越、鶴ヶ島、日高、飯能、東松山、毛呂山、越生、鳩山の各市町村のご後援を頂いて実施しております。昨年度の講座は、開設以来初めて、参加延べ人数が1000人を超えました。正確には1681人（男性671人に対して女性1010人）で大変な好評を頂きました。『長寿社会を生きる——21世紀に向けて』というテーマが良かったのかも知れません。例年の倍以上の参加者で主催者側もびっくりしてしまいました。昨年行われた公開講座の統一テーマと個別テーマは次の通りで、今年度のテーマは未定ですが、地域の方々に楽しんでご参加を頂けるようなテーマを模索中です。是非ご意見等を賜りたいと思えます。

統一テーマ『21世紀に向けて——長寿社会を生きる』

テーマ	月日	内 容	講 師
総 論	9月26日 (土)	高齢化社会とは何か	教授 畑尻 剛
	10月 1日 (木)	ヒトが「老いる」とはどういうことか —生き物としての老い—	教授 林 秀徳

社会 問題	10月 3日 (土)	私たちの暮らしと医療・介護・年金 はどうなるか	講師 大森正博
	10月 8日 (木)	高齢者の働く機会と場所 —雇用と労働市場—	講師 杵渕友子
	10月15日 (木)	長寿の生活設計とライフスタイル	教授 下野武司
歴史 民族 文化	10月17日 (土)	老人を尊敬してきた社会 —共同体と長老たち—	助教授 蓼沼康子
	10月24日 (土)	「古い」の豊かさ —それぞれの老い—	教授 木村 浩
	10月30日 (土)	「古い」生きぬく力 —その文学と宗教的世界—	教授 黄色瑞華
	11月 7日 (土)	老化という現象 —「ボケ」はまだ大丈夫?—	教授 岩崎慎一
	11月14日 (土)	長寿の秘訣と化学 —環境中の、 抗体物質、農薬 から身を守る—	教授 村岡 亘
	11月21日 (土)	薬とのつきあい方	齋藤侑也
	11月28日 (土)	中高年からの健康とスポーツ —閉講式—	教授 武藤幸政

「旅」と「旅行」について

パック旅行は、便利で、頭を使わなくて済み、何の努力もしないで人気スポットに連れて行ってくれる。気に入らないことがあれば添乗員に文句を言えばよい。本当に気楽に参加できるという利点はある。しかしこれが日本の伝統的な「旅の文化」を壊している側面が多いのではないかと思う。新婚旅行、家族旅行から学生の卒業旅行、クラブ・サークルの旅行、各種の体験ツアー、山登りハイキングのツアー等々、何から何までがパッケージ化されている。こうしたパッケージツアーを楽しんでいる多くの善男善女がおられるのを承知のうえで敢え若干の苦言を呈したい。

確かに「餅屋は餅屋」にまかせるのが時代の趨勢かもしれないが、旅の企画から実施までを、すべて旅行会社に依存するのはどんなものだろうか。これは旅行に限ったことではなく、衣食住すべての面で日本の伝統的な文化が失われ、安直化、簡便化、パッケージ化されているのだから仕方ないとしても、「旅行」だけは違うのではないかと思う。静かな旅行を楽しんでいる人に多大な迷惑を掛けていることに「パック旅行」をしている人（私も含めて）は気付かないことが多い。これは、「多数派が少数派を無視する」とこと根は同じである。日本では、「少数派が村八分」されたり、多数派が「みんなで渡れば」恐いものなしにまかり通ってしまう、そういうことと同根だと言いたいのである。例えば予定の旅やレストランが旅行会社の貸し切りになっていて、「旅人」は受け入れてもらえなかったり、山の中の一軒宿までが旅行団に占領されていることもある。我々登山者が気持ちよく歩いている林道（林道以外に一般車乗り入れ禁止の営林署管轄の林道）を、砂煙をあげて大手旅行会社の「山登りツアー」の観光バスが、山奥まで分け入っている光景を見ると、普通の「旅人」はつくづく少数派なんだと思う。旅行には行くが、旅をしたことがない人には、こうした「旅人」の心境は理解出来ないかもしれない。

「旅」と「旅行」は、どちらも国語辞典には、「自宅を離れて一時よその土地に行くこと」と書いてあり、同じ意味かもしれないが、実際は似て非なるものであると思う。団体旅行、パック旅行は「旅」ではなく「旅行」である。

「旅」の人数はせいぜい数人どまりであるが、「旅行」の人数は、数人以上で上は限りがない。私が昨年参加した2泊3日の北海道旅行は、数千人の規模の

大「旅行」だった。「旅」の企画とスケジュールは自分でたてるが、「旅行」の予定はすべて旅行社まかせである。「旅行」では「天候の変化」はあっても、できる限り変化がない、コース変更もなくスケジュール通りに進行するのがベストである。しかし「旅」には変化は付き物で、スケジュール通りよりも、ハプニングを楽しむのが「旅」の醍醐味である。松尾芭蕉はよく「旅」には出たが、「旅行」に出かけたという話は聞いたことがない。車寅次郎ことトラさんもよく「旅に出る」というセリフは聞いたが、「旅行に出かけてくる」と言って出かけたことはなかったと思う。

「旅は道づれ世は情け」「旅は憂いもの辛いもの」「旅はこころ、世は情け」「旅は情け、人はこころ」等々、旅にまつわる格言は多く、また「旅」の恥はかき捨てと言われるが、「旅行」の恥はかき捨てと言いき直すべきである。私も家内と二人で「旅行」にも参加するが、この場合は、自由時間の単独行動が唯一の楽しみである。軽いジョギングシューズをスーツケースに忍ばせておいて、ホテルについて時間があれば先ず町を一周してくる。時々ホテルへのルートに迷って、道を尋ねるのも楽しみ一つである。話好きな人がいるもので、30分以上も立ち話をしているうちに夕食の時間になって慌ててホテルに電話することも旅の思い出の一つになる。翌早朝さらにもう一周してくると、その町の様子がよく脳裏に刻み込まれ、帰国後その町の名前がニュース等で流れると、自分の「ふるさと」が話題になったような気分になる。これは確かに添乗員にとっては甚だ迷惑なことであることは重々承知の上で、敢えて「旅行」中に「旅」の要素を若干取り入れることを勧めたい。「旅」のスケジュールをたてる際に旅行社によく相談して決めるのもベターな選択であろう。

世の中には「旅行」が好きな人と「旅」を好む人がいて当然であるが、「旅行」者が多数派で、「旅人が静かな旅をする権利」が浸食されている現状は我慢の限界にきている。有名観光地を駆け足でスケジュール通りに廻ってくるのに、どれほどの価値があるのだろうか。それよりも特定の場所に定住して、その地域の動植物や草花、その土地の人々の生活や文化にとけ込んでみるという余裕のある「旅」をしたいと常々考えているが、まだその時間がない。

(下野武司)

言い出しっぺで有り難う

「クリスマスどうして過ごすの、予定ある。」「何もないわ。」「じゃあ、クリスマス会でもしようか。」一年半ほど前、なにげなくかわした友人との会話がきっかけで、自宅開放の食事会を開いた。

一回目は私の友人や近所の方なので初対面どうし、年齢の幅もある。共通なのは、シングルであること。子ども達も育ち、自立してしまったということ。

「一人寂しく、テレビを見ているクリスマスなんてつまらない。」と一夜を、食べて、語って、楽しく過ごした。そして、又やりましょうということになる。

これがきっかけとなって生まれたのが、S・L・Hの会。Sはただ今シングル（死別、離婚、独身）ならば、男性、女性どなたでもどうぞいらっしやい。Lはライフ。生かさせていただいている、限りある時間の生活を。Hは各自がこの場所をハッピーやホームやヘルス、またホープ、ハートにホウルド、ヒューマン、ハーモニーとその時々で置き変えて、集まれるようにとした。

お互いがシングルだから、こんな悩みもある、寂しさもある、本当に分かる分かる支えあっていこうよということで「いっしょにご飯食べない」と声を掛けて、一人増え、二人増え、わが家に集まりだした男性や女性達。

中身はこのお料理おいしいねと作り方の話。こんな困ったことあるんだけどと言うと、誰かがそれならいい人知っているから話であげる。あそこで今〇〇をやっているわよ、とか情報交換。一品持ち寄りの時、お寿司を取る時、テーブルの上もいっぱいなら、話もつきることなくいっぱい楽しい一時を過ごす。時には緑を求めて散歩に出たこともある。又、老後のライフプランと題して、「生涯学習をすすめる市民の会」の下野先生の講義を聞いたりして会を重ねていった。

昨年のクリスマスには、「ちょうど一年たったけど、今年の楽しかったこと話して」と言う、「S・L・Hの会に呼んでもらったことが良かった」と言ってくれる人が何人かいた。

私はシングルになってしまったことは悲しいことだが、言い出しっぺで音頭を取っていたら、喜んでいただける人がいた。こうしてお互いを支えあえる友人が又々いっぱい出来て、なんて幸せなのだろう。

こちらこそ有り難う。

俗に人間は支えあって生きるのだから、「人」（ヒト）と書き、一画目が男で二画目が女で人。男女を表している。男は女がいなくなると、支えがなくなりペシャンコになるが、女は逆に被さる者が無くなり生き生きとするものだ。などという説を聞いたことがある。

しかしこの世の中、男性と女性だけ。両性とも仲良く思いやり、支えあって生きたいものだ。

まして最近では、男女共生ということが叫ばれているのだし、遅かれ早かれいずれば再びのシングルになるのだから。

子ども達が自立した後の長い時間を、己も自立した姿勢を崩さず、友人と支えあうのも、シングルの新しい生き方だと思えてならない。

ちなみに市民の会での私のキャッチフレーズは「支えます、支えて下さい」としてある。

シングルの方、いっしょにご飯を食べませんか。

第4回いるま生涯学習フェスティバル風景



昨年度より好評の手書き横断幕

書く人・縫う人・とりつける人・・・生涯学習の結晶

人間はボランティアが好き

ボランティアというと、「困っている人を助けてあげること」だと思っている人が多いのではなからうか。しかし実際にボランティアに楽しさを見出した人のほとんどは「助けられているのはむしろ自分だ」と気付くだろう。ボランティアは「助ける」ことと「助けられる」ことがドッキングし、誰が与え、誰が与えられているのか線引きや区別する意識を持たなくなる引力あふれる関係である。

個人がさまざまな社会問題に関心を持ち、心を痛めたとしても、一人では大したことはできないという無力感や焦燥感を否めない現代社会の中で、ボランティアは新しいつながりに出会う実践的な道を示してくれる。

ひとりの人間が関われるのは身近な、さ細なことに止まるかも知れない。しかしその小さなボランティア行動は、本人でさえも予測しなかった展開をもたらすことはよくある。

自分の微力だけで物事を運んでいくには限界がある。またその必要もない。自分にできる役割のために、時間を、また提供できる経験・知識をいつもスタンバイしておく心のゆとりは不可欠であると共に、いわゆる適材適所が望ましく、ボランティア活動の地盤を固め、安定したつながりが広がる。

「ボランティアとは……」といかめしく理論をとり立てるよりも、どんな形であれ規模であれ、個人として、または団体として、何かの役に立つことで充実感、喜びがわいて来る。

複雑な経済・社会的構造の中でともすると忘れられているが、人間は本来、「人々の、社会の役に立つ」ことに生きがいを見いだす感性を備えていてボランティア好きである。この自然体のまま、人間が自発性に基づいて行動することに、計り知れない価値があると思う。

家庭教育講座に想う

この名前からして、実に堅い感じがする。「入間市生涯学習をすすめる市民の会」も共催として3年!

テーマ「今、子どもの環境を問う」で、「遊び・育ち・体験・自然」という副題は、子どもが育つ上でどれも欠くことの出来ない命題であると思う。

子どもの視点に立つと言いながら、実は大人の立場からしか物事を見れない大人。子どもをとりまく環境が日々厳しくなっている現実、大人にとっても厳しくなっている。よく「大人社会の縮図が子ども社会」と言われているが、今、ストレートにそれが子ども社会に反映している、という事をもっと知っていく必要があると思う。

毎年、年度末にシリーズで開催される「家庭教育講座」は、子どもの視点から語り、行動している方々をお招きして、「大人のための講座」としている。そして、最後に子どもと「共に遊ぶ」ことも大事にできています。

当初からの主催は、「市民の会」はもちろん、中央公民館・児童センター・子ども会育成会連絡協議会・入間おやこ劇場・入間あそび場づくり協会、という子ども達の事を考え、実践している団体です。今年度より、青少年健全育成推進協議会と、青少年相談員が加わり、更なる広がりをもてました。

今、子どもの育ちは、家庭・学校だけでなく、「地域も共に」という表れであると思っています。

21世紀を担う子ども達の環境を用意し設定する事は、社会(=大人)の義務です。

希薄になっている人間関係、自分さえよければという自己中心的考え、汚れた大地や大気、食べ物さえ安全ではありません。この事に危機感をもっている大人が手を結び、ネットワークを広げていくために、地域はもっと密にならなければなりません。密になる比率が子ども達の社会の比率となっていく事でしょう。

この現実に対して、微々たる力かもしれない「講座」の広がりを、もっともっと進めていけたらと切に願っています。

「子どもは未来の光」です。そして、私の生涯学習はここに在ります。

平成10年度埼玉県ボランティア大会における事例発表概要

日時 H. 10年10月25日 13時～16時

場所 埼玉県県民活動総合センター

テーマ 『市民と行政の共働の可能性を求めて』

入間市生涯学習をすすめる市民の会について

1995年1～3月、入間市社会教育課生涯学習担当が事務局となり、「入間市生涯学習のまちづくり懇話会」会議4回開催。メンバーは、事務局が選んだ団体代表者・学識経験者等。その懇話会有志と市報公募により集まった25名で、1995年5月「入間市生涯学習をすすめる市民の会」発足。この4年間に各自の事情で退会、協力委員となった委員もあり、現在17名で活動。市長依頼の形をとっているため、昨年度より新委員の募集方法を検討している。

入間市の生涯学習推進について、月一回の定例会議、随時行われるスタッフ会議で様々な手立てを検討し具現化している。会議、作業回数は年間百数十回に及ぶ。

推進計画書の策定・生涯学習フェスティバル開催・情報紙発行・行政側との話し合い・テレビとFMのスポット番組制作・各種生涯学習関連事業の支援・各種研修会参加等、いくつかのスタッフ会議がある。本年度より、行政への提言書作成・会報発行・生涯学習指導者情報収集事業が新たに加わった。

そもそも、行政主導でできた会である。事務局が生涯学習課にあること、また予算がついていることのメリットは大きい。会議報酬等の無いボランティア団体であるが、事業費、研修費等に年間145～150万が充てられており、情報紙印刷費全額とフェスティバル経費の半分は教育委員会負担である。

事務局としての生涯学習課職員、及び公民館職員とは定例会、フェスティバル実行委員会・公民館職員部会等で意見交換をしている。が、当初の推進計画の組織図に両輪として位置づけられている片方の市の推進組織（部長十数名と助役等からなる）とは発足以来一面識もなかった。（注：平成11年8月によろやく初会合がもてることになった）

委員であることは権威ではないので、フェスティバル開催、情報紙発行等を通して他の生涯学習実践団体・個人と話し合いの場をつくるようにし、多くの市民の意見が反映するよう腐心している。学校・企業との連携が今後の課題である。

市民の会の問題点とこれから

会としてのまとまった考え方がまだできていないので、以下は私見である。

市民による市民のための生涯学習推進をうたい、年間予算をつけていることは入間市の市民参加のスタイルとしては斬新であったし、他の既存の市民団体にくらべ、かなりの実績をあげていると自負している。しかし、行政側の推進計画の進捗状況は明確ではなく、『市民による....』という、当初のうたい文句が行政の逃げとも感じられるこの頃である。

新しい組織や計画をつくる時、担当の行政職員は理想に燃えて、我々市民とも時間を忘れて議論する。しかし、度重なる人事異動後、その形骸を受け継ぐ職員には当初の壮大な理想の重みが過負担となっていると思われる。

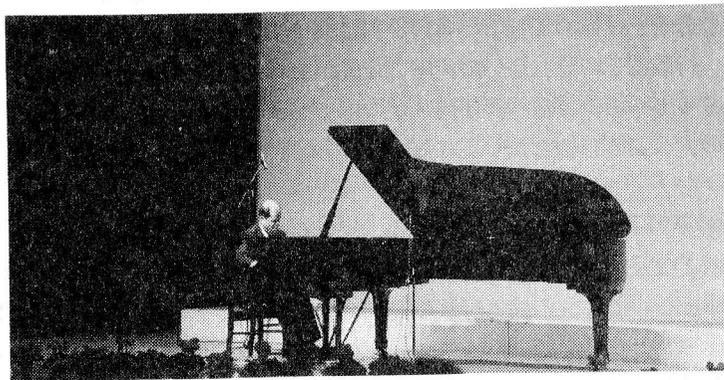
一方、自発的に集まった市民委員の生涯学習推進についての理解はさまざまであり、入間市で何をすべきかと充分討議する間もなく動き出してしまい、4年が過ぎた。そして今、目先の事業のための会議の多さと雑用の余りの負担にやはり音を上げ始めている。各自、夢に描いていた好きなことができる訳でもなく、行政側との話し合いの段階で企画が潰れていくことの多いのがストレスにもなっている。委員全員が何らかの形で推進事業の遂行に喜びを感じなければ、この先、会の存続も難しくなるだろう。

生涯学習フェスティバルについては、毎年6ヶ月間にわたり、市民の会委員7、8名と公民館等生涯学習関連課の職員で実行委員会をつくっており、入間市の諸事業の中では、市民と行政職員がバランスを保って共働している好例となっている。しかし、そのバランス（かたやボランティア・かたや仕事）を保つには多くの仕掛けや配慮を要する。

初年度には、このフェスティバルの他、情報紙発行、推進計画策定、啓発ポスター・標語の募集等すでに事務局側で意欲溢れる事業計画を作ってくれていたため、私たちは訳もわからず遂行しなければという状態だった。その後、他市町村の事例等検討したが、目玉になるような打ち上げ花火的事業やセンター建設の嘆願は必要ないという結論に達した。まず、行政がたてわりの中で行ってきた重複した生涯学習関連事業の見直しと統整理、度々試みた形跡はあるものの成果のあがっていない人材バンク構想（指導者情報収集）の建て直し、学校との連携等の地道な部分の整備が必要であるということになった。ただ、このような分野に首をつっこむと、どうしても、行政の勝手と横の連絡の悪さを責めることになるばかりで、行政との共働はむずかしくなってくる。いっそ、民間らしい事業を行政から離れてやってしまう方がよいかもしいという意見も委員の中からは出ている。

会も4年目を迎え、市内の生涯学習状況に関する情報量の多さでは、委員と新任関連職員の立場が逆転する場合もでてきた。今後、動きの遅い行政から独立する道を選ぶか、今しばらく行政に庇護された状況を利用していくか、私たち自身もまだわからない。

第4回いるま生涯学習フェスティバル風景



盲目のピアニスト 島筒英夫さんによるオープニングコンサート

E. L. F. (エンジョイ ライフ フォア-エバー)のすすめ 《いつまでも楽しい人生を過ごしましょう》

突然ですが皆様の中で余暇が有りながら、今日も、明日も何の予定も無く、なんとなく日々を過ごしてしまっておられる方はおりませんか。中に私はもう年だからとか云って家でゴロゴロしている方はおりませんか。それでは身体によくはないばかりか一度しかない人生つまらないではないですか。そこで「いつまでも楽しい人生を過ごす」方法を教えるかわりに私の過ごし方の一部を披露したいと思います。……参考になれば幸いです。

私は2年前の平成9年3月に60歳の定年を迎えると同時に退職し、以後働くこと無く、余暇を健康的に、精神的にも有意義に過ごすために市報や公民館だよりにより目をくばり自分の趣味、好みにマッチしたサークル活動の募集を探しては応募し、今では社交ダンス2、ミニテニス2、水泳1、山を歩く会、溪流釣りの会等7つのサークルで毎回、楽しく活動をしている他、公民館のイベントから2ないし3参加して、それこそ毎日、毎日が充実したE. L (エンジョイ・ライフ) をしています。

サークル活動をすることによって多くのお友達が出来て、ほんとうに楽しい人生を過ごしております。この楽しさを一人じめしてはもったいない、多くの人たちに勧めようと思っていた時期に「生涯学習をすすめる市民の会」の委員に任命を戴きましたので、機会ある毎に多くの人に勧めたいと思います。

よく定年を迎えたら……との声をよく聞きますが、出来れば現役中から市報や公民館だよりとか口コミ等から自分の体力、趣味にマッチしたサークル等を探して入会し、出来る範囲でよいから顔を出して、趣味を増やしておく努力が大切かと思えます。「百聞は一見にしかず」の諺ではないけれど、貴方も勇気を出して一度、身近なサークルに顔を出してみたら如何でしょうか。サークルの指定日が待ち遠しく思うようになること請け負いです。サークルを1から2・3と増やしたくなるにつれて友達も増え、毎日・毎日が楽しくなると思えます。

生涯学習は学問に属する学習から絵画、彫刻等の芸術から小生が行っているような運動から、いわゆるお稽古ごとまで非常に幅が広く含まれております。

だから、きっと貴方にマッチするサークルが身近にあるはずです。サア貴方も「いつまでも楽しい人生を過ごすために」「生涯学習」を行いましょ……

「学び—生活創造」未来を創るわたし色



第10回全国生涯学習フェスティバル

生涯学習研究会議

生涯学習研究会議の概要

テ		マ	事	業	名
基調シンポジウム			「生涯学習への期待と課題」		
分野別研究會議	①	情報化と生涯学習	「情報化と生涯学習」～ネットワーク社会の情報提供システムを考える～		
	②	国際化と生涯学習	「こころの国際化」フォーラム～国際交流に何を学ぶか～		
	③	高齢化と生涯学習	「第5回全国高齢者社会参加フォーラム」		
	④	家庭教育と生涯学習	「フォーラム家庭教育inひょうご」		
	⑤	地域社会と生涯学習	「生涯学習と21世紀の地域社会」～地域を担う生涯学習活動～		
	⑥	生活課題と生涯学習	「生涯学習フォーラムinひょうご」～環境学習 学びの道具箱～		
	⑦	ボランティアと生涯学習	「生涯学習ボランティアフォーラム」		
	⑧	男女共生と生涯学習	「オープンフォーラム」～「生きる」ことを考える～		
	⑨	施設間連携と生涯学習	「施設間連携と生涯学習」～21世紀に向けたミュージアムのあり方を考える～		
	⑩	企業人の社会参加活動と生涯学習	「経済界と教育界による生涯学習フォーラム」		
	⑪	大学開放と生涯学習	「第10回大学開放の在り方に関する研究会」「第4回生涯学習実務者協議会」		
	⑫	専修学校教育と生涯学習	「平成10年度専修学校教育研究協議会」		
	⑬	諸外国の教育システムと生涯学習	「諸外国の教育システムと生涯学習」～諸外国の生涯学習システムから日本の新しい仕組みを考える～		
	⑭	民間教育事業と生涯学習	「伝統芸能の将来とカルチャーセンター」		
	⑮	世代交流と生涯学習	「共に創る心豊かな生涯学習」		
総括シンポジウム			「これからの生涯学習社会をめざして」		

第10回全国生涯学習フェスティバル実行委員会
開催期間 平成10年9月30日(水)～10月4日(日)

第10回全国生涯学習フェスティバル・研究会議参加報告

期 間 平成10年10月1日(木)～平成10年10月2日(金) 2日間

場 所 明石市立勤労福祉会館・西宮市フレンテホール

概 要

- 研究会議「情報化と生涯学習」10月1日(木) 9:30～16:40

〔事例発表1〕情報化と生涯学習施設「ガレリアかめおか」

講師 亀岡市企画管理部 生涯学習都市推進室長 加茂 巖 氏

京都府亀岡市の生涯学習施設「ガレリアかめおか」について施設概要の説明があった。この施設は、生涯学習情報提供コーナー、学習室、イベントホールの他に、福祉や観光物産コーナーなど様々な機能を持ち、多様な情報をコンピュータなどを使って提供しているという。特に説明の中で印象に残ったのは、地域史の中から石田梅岩を当時の生涯学習の実践者として意義づけ、業績を紹介する展示コーナーを設けたり、生涯学習情報コーナーのタイトルに梅岩の名前を付けるなどして地域性を強調していることで、歴史をふり返る姿勢はこうした施設には珍しく、好感が持てた。情報化に積極的な現場の事例を期待していたのだが、全体として施設紹介が中心で、情報の内容や収集方法、客の反応、メリット・デメリットなどの現状を具体的に説明いただけなかったのが残念だった。

〔事例発表2〕ネットワーク社会と情報インフラストラクチャー

講師 (株)NTT神戸支店通信システム営業部 可藤 万寿生 氏

「ネットワーク社会」の将来的なあり方について、幾つかの方向性を提示して説明があった。コンピュータとデジタル情報は、今後、「生活」の中で使われていく傾向にあるという。家庭に双方向性の光ファイバーケーブルが設置され、テレワークと呼ばれる在宅勤務を可能にしたり、一人暮らしの方や高齢者のための有益な地域情報を提供するなど、これからは、知的欲求を満

たすのみでなく、生活の中で必要な情報が得られるようになるのではないかと語られたのが印象に残った。コンピュータは以前に比べれば普及したとはいえ生活の中で本当に必要な情報を得るのに便利な媒体かどうかは疑問が残る現状である。しかし、こうした企業の動向を見定めつつ、生涯学習情報の提供方法を探っていかなければならないと痛感した。

〔事例発表3〕 情報化と公共図書館の新しいサービス

～八ヶ岳大泉図書館の実践

講師 山梨県八ヶ岳大泉図書館長 小林 是綱 氏

コンピュータ利用によって新しいサービスや運営を可能にした大泉図書館の事例を、ビデオを使って客の様子を具体的に説明しながら、その効果について説明があった。大泉図書館は平成10年7月に開館し、金田一晴彦ことばの資料室を併設した施設である。ここでは、コンピュータを収蔵図書の検索や電子読書に使用し、ことばの資料室でも全国方言ライブラリーと題して、方言情報を収集・提供している。地域の図書館が図書情報のみでなく、テーマを決めて情報を広く集め、発信していくことによって、図書館を地域の枠に止まらず、全国を視野に含めた知的好奇心を満たす施設と位置づけたことが興味深かった。また、特筆すべきは、本の貸し出しを人が介しない自動貸出機によって行っている点である。これは図書館業界では賛否両論あるというが、それによって午後10時までの開館時間延長が可能になり、職員がカウンターから外に出て、積極的に利用者に対応する丁寧なサービスが行われるようになったという。夜間の職員の無人化は、管理面で困難と思われるが、特に問題もなく、午後8時過ぎてからの親子連れが目立つようになったという。コンピュータを従来ある情報の提供手段と見るだけでなく、どのような施設と位置づけ、どんなサービスがふさわしいのかというビジョンを明確に持った上で、コンピュータの特質を生かそうとしていることが重要だと感じた。

〔事例発表4〕 地域情報化／生涯学習分野におけるコンテンツ運用について

講師 松下電産システムプランニングセンターコンテンツプロデューサー 坂本 裕嗣 氏

映像情報のデジタル化にともなう利点や現状について、企業側からの説明、提案があった。デジタル化の利点として、耐久性があり永久使用が可能である点や、インターネットなどとの連動可能な点、ソフト1本で複数の端末か

ら試聴可能な点などを挙げ、地域の記録映像に使用したり、映像情報をデータベース化して提供するシステムなど幾つかの可能性を示唆した。しかし、既存のビデオ作品のデジタル化は、複製権、送信可能化権といった著作権処理が必要になり、メーカーの合意を得られない状況があるという。とはいえ、デジタル化の永久保存が可能な点や情報提供方法の選択肢が広がる点などを考えると、当面は自主製作作品について行い、効果的な使い道を探る段階だろうと感じた。

〔事例発表5〕 ひょうごインターネットキャンパス

～新しいタイプの生涯学習情報ネットワークシステムの提案～

講師 兵庫県生活文化部生活創造課課長補佐 鬼本 英太郎 氏

兵庫県で平成10年から試験的に実施している「ひょうごインターネットキャンパス」の経緯や機能について、説明があった。兵庫県では、既に昭和62年に生涯学習情報ネットワークを整備したが、その後情報が集まらないなどの問題点を解決するために、今回ソフト開発を行ったという。このシステムで画期的なのは、この事業のために新たに情報を入力する部分はわずかにすぎず、既にある市町村のホームページにアクセスされるようになっていくことである。これは市町村の情報入力負担をできるだけ軽減し、なおかつ将来に、新しいシステムが導入されても無駄にはならない素晴らしいアイデアだと感じた。またホームページを開設している所は契約可能なため、公共施設だけでなく、大学や民間事業者など幅広い学習情報が入手可能な点も魅力だった。まだ試験的な段階のため、効果不明との話だが、同じような問題をかかえる埼玉県システムにも大いに参考になる事と思った。

〔講演会〕 演題 インターネット市民革命－日米の違いを考える－

講師 (株)インサイダー代表 高野 孟 氏

コンピュータ普及の環境について、日米を比較しながら紹介し、インターネットの可能性についても日頃感じていることを具体的に話された。アメリカでは、高齢者のネットワークが盛んで、外へ出られなくてもコンピュータを通して仲間づくりが積極的に行われているという。また、コンピュータを持てる・持てないといった貧富の差が歴然としており、市民が自主的に貧しい子供たちのためのパソコン教室をつくる運動を行っていたり、市民差別反対の団体がコンピュータのネットワーク上で盛んに議論を交わすなど、コン

ピュータ普及には市民の意識の違いが見られるのだという。また、高野氏自身がホームページを開設して感じていることは、このメディアは、テレビや出版物とは異なり、「人のメディア」ではない点だという。つまり、表現者として番組や編集の意向に妨げられることなく、直接世界へ発信できることが大きな特徴だという。確かに、個人がお金をあまり使わずに、多くの人々に向かって情報を発信し、享受できるメディアは他に例はなく、可能性が大いに広がるが、同時に発信者と受け手の双方が、膨大な情報を吟味し、取捨選択する目が大事になるだろうと感じた。

2 「施設間連携と生涯学習

～21世紀に向けたミュージアムのあり方を考える～

10月2日(金) 10:00～15:40

〔活動報告1〕人と自然の博物館における学社融合事業

講師 兵庫県立人と自然の博物館指導主事 深田 英世 氏

「人と自然の共生」をテーマに平成4年開館した「人と自然の博物館」の博学連携事業について、中学校理科・数学教諭で指導主事として館に派遣された担当者からの説明があった。教員の研究部会の中に博物館部会があり、そこで館蔵資料や標本類の教材としての洗い出し作業やワークシートづくり、研究事業の実施などを行っているという。特に参考になったのは、教員が授業で活用しやすいように配慮して作成された「団体利用の手引き」という冊子で、展示資料の解説、学校の教科・単元と展示コーナーの関連表、利用の際の留意事項、授業での活用例といったかなり具体的な内容が盛り込まれている。当市にも学芸員と教員で構成される組織があり、派遣指導主事の尽力によって、授業中での博物館の利用が進められているが、まだまだ学芸員、教員双方に意識の隔たりを感じることもある。この冊子は、教員にもっと博物館に関心をもって、活用してもらいたいという細やかな配慮が感じられ、今後こうした手引書を作成する上で、恰好の参考資料になるのではないかと感じた。ただ残念だったのは、冊子の効果や学芸員側の意見、連携事業の中心的な仕事を担っているように見える学習推進員の選定方法や指導方法などにあまり触れられていなかったことで、もう少し質疑応答の時間があればと感じた。

〔活動報告2〕学校からみた博物館

講師 兵庫県立姫路東高等学校教諭 平良 哲夫 氏

教員側からみた博物館の授業における有効な利用法についての実践報告があった。講師は博物館はモノをよく見てもらうための絶好の機会なのだから、メモを取らせるようなことはいっさいしないという。また、学芸員から事前に学習し、教員自身が主体的に展示資料を教材化して授業に活用する姿勢がなければ、日頃の授業にも影響するという。博物館のもつ固有の情報は、印刷物や映像といった二次的なものではなく、実物資料のもつ情報であり、モノから情報を引きだす目が自然や歴史を考察する視点でもある。こうした施設の特色を踏まえた活用が実践されることで、施設の魅力も引きだされ、理想的な連携が可能になるのではないかと感じた。

〔講演〕演題 地域博物館と学校教育

講師 静岡大学教授 大堀 哲 氏

生涯学習の観点から地域博物館に期待されている要素と、博物館側から学校教育に期待すること、効果的な連携の実践例などを、近年の傾向を紹介しながら説明された。考えさせられたのは、ワークシートを例にとって、教員が博物館を利用する際におちいりがちなのが、答えを求めてしまうために問題集化してしまうことだという。本来は自分で主体的に物を考えたり判断する力を養う事が重要で、ワークシートは展示物と人をつなぐコミュニケーションの媒介となればよいはずではないかというのが氏の考えである。また博物館は横断的、総合的な学習の宝庫なのだから、そうした特徴をふまえて有効に使ってほしいとの話もあった。私自身もその意見に全面的に賛成だが、当日は連携に熱心な方々ばかりの参加だったためか、そのようにできない学校現場からの報告が加われば、より現実的な方法論を探れたのではないかと思った。また、博物館に教員のための相談の部屋を設けたところ、予想以上の効果があがったとの話があり、教員と学芸員の日常的な「交流場」の必要性を強く感じた。

かがやく

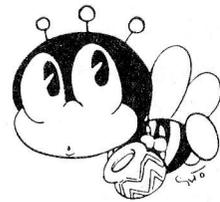
企画編集：入間市生涯学習をすすめる市民の会
発行：入間市教育委員会生涯学習課
題 字：アンドリュウ・スタッダード君
(新久小 5年)

〔基調講演〕演題 いまミュージアムは

講師 国立民族学博物館教授 端 信行 氏

生涯学習の裾野が広がり、学ぶ対象も広がっている中、ミュージアムへの関心は高まってきているが、ミュージアム側もこうした市民のニーズに対して変わっていくべきではないかという疑問を投げかけ、「ミュージアムの社会化」を提唱したこの講演はなかなか考えさせられるものだった。かつてミュージアムはこの施設を愛する人にむけてだけ情報を発信していればよかったが、現代は社会にむけて、地域文化に貢献しなければ市民はソッポを向いてしまうというのである。また、ユーザー研究が欠落してきたため、無関心層をひきつけることができないまま、婦人とお年寄が中心層になっているのではないかという指摘も納得させられた。生涯学習時代の到来といわれる現代、博物館に求められるものも一方的な情報提供に止まらず、主体的な関わり方に変わりつつあることを実感している。施設の核となる部分をよく見極めた上で、こうしたニーズに対してどう答えていくのかを考えていかなければと痛感した。

(生涯学習課主事)



特集 子どもの「そだち」を応援しよう (幼児・小学生編)



彩の森入間公園にて 桜井 孝子さん撮影 (高倉)

育ち合う...

一九六〇年頃から、子どもを取り巻く環境が激しく変わり、子どもの様子にも、大きな変化が現れてきました。

広場で「群れて遊ぶ」子どもをあまり見かけなくなりました。上級生をまねて「夢中で遊ぶ」こともなくなってきました。お金や物に恵まれている子どもたちの「ひとり遊び」が増えてきました。このような変化を、大人たちは都市化や核家族化や少子化などのせいにして嘆いているばかりです。

かつては「群れて遊ぶ」「夢中で遊ぶ」中で、いろいろなことを学び、そして大切なことを身につけました。たとえば、上級生のように見まねで、幼い者や弱い者にやさしくする生き方を身につけました。まさに、「育て合い」「育ち合い」です。その「育ち合う」「育て合う」場や機会が失われつつあるので、大事なことは、そうした場や機会を取り戻す、あるいは作ることです。そのために何ができるかを考え、知恵を出し合い、できることから始めることです。

市内でも、すでに行くつかの試みがなされています。それぞれの場所ですさまざまなことを考え、実践している人もいます。本号が子どもの「そだち」を考ええるきっかけとなれば幸いです。

生涯学習標語 幅広い 世代をつなぐ 生涯学習 河野敬一郎さん

知っていますか？ 子ども文庫

自宅の図書の開架や、読み聞かせをしています。各文庫の詳細については、それぞれお問い合わせ下さい。

●**こども文庫**……豊岡
毎週水曜 11:00~12:00 15:00~17:00
☎962-3360 横田

●**青空文庫**……宮寺 武蔵藤沢台集会所
毎週土曜 13:30~15:00
☎934-4255 小野

●**グリーンヒル文庫**
……上藤沢グリーンヒル集会所
毎週水曜 14:30~16:30
☎964-7104 寺田

●**ゆうやけ文庫**……図書館西武分館
第2・4金曜 14:30~16:00 (未就学児)
第2土曜 10:00~12:00 (小学生)
☎932-7458 畠

●**藤沢子ども文庫**……東藤沢
毎週土曜 13:30~15:00
☎963-1482 伊藤

●**たけとんぼ**……久保稲荷
第1・3土曜 13:00~15:00
☎963-0890 菊池

●**チビと山賊の家**……新光
随時 語りの会・ミニコンサート開催
☎932-5086 広田

「子どもたち」集日 来し

■入間おやご劇場

舞台芸術鑑賞を通して子どものみずみずしい感性を育てます。キャンプやワークショップ等の自主活動も盛んです。
☎962-7719 事務局

■ジュニアチャレンジクラブ

家庭や学校ではできない体験や遊びから、地域や学年を超えた友情を育み、リーダーシップを養っていきます。
小学生以上
☎965-8858 (社)入間青年会議所

■手をつなぐ親の会

知的な障害を持った人が、地域で楽しく生活や仕事ができるように活動している親の会です。会報を発行しています。
☎962-7292 高田

■どろんこの会

「どの子ども地域の学校へ!」「だれもが住みたい入間市を!」と願って月例会と会報発行を中心に活動しています。
☎962-8621 黒古

■ほかに

- 少年野球・サッカーなどの子どものスポーツ団体のことは市体育課 ☎964-1111(内線4213)
- 各公民館で活動している幼児・子育てサークル、子どもの文化サークルのことは市生涯学習課 ☎964-1111(内線4123) または、もよりの公民館におたずねください。

入間市には、200以上ある子ども会育成会のほかにも、子どもが子どもらしく育つことを願い、支援する団体がたくさんあります。

■赤ちゃんサロン

保健センターの母親学級のクラス会がもとになってきた自主サークル。平成10年度は22グループが活動しています。
☎962-2822 保健センター

■ビーどろ

出合いのチャンスが少ない育児母さんのための仲間づくりのサークル。会報は隔月発行。バックナンバーは児童センターに。ホームページもあります。
☎932-0687 熊谷

■ボーイスカウト

人や自然を思いやる心、自立心や創造力、奉仕の精神を養う世界的な社会教育運動です。6才以上 男女問わず 市内4分団(藤沢・宮寺・金子・その他) ☎964-7625 多賀

■ガールスカウト

活動目的は、ボーイスカウトに準じます。女性の目を通して社会に役立つ力を養います。小学校1年以上 月2回 休日に活動 藤町屋公民館 ☎964-5370 徳永

■ 冒険遊び場をつくらう!

入間遊び場づくり協会



現代社会の中で、子どもたちが「冒険遊び場作り」をめざし、まず全国各地の情報を集めた。そして、その手始めに、仲間と関わる楽しさを伝えるように、毎月一回、市内の公園に集まった子どもたちと遊ぶ体験の場を設けている。

黒須の大場さんを中心に、数名の父親たちが集まり、入間市遊び場づくり協会が設立されたのは三年前のこと。青少年の犯罪や不登校が増加し、いじめの実態も次第に明らかにされていく中、自分たちも何かしなればという熱い思いからこの協会が発足した。

幼児期から学童期にかけて、子どもたちは戸外で遊ぶという体験が少なくなっている。特に年齢の違う子どもたちが入り混じって遊ばなくなっていることに着目し、みんなでアドベンチャー

黒須の大場さんを中心に、数名の父親たちが集まり、入間市遊び場づくり協会が設立されたのは三年前のこと。青少年の犯罪や不登校が増加し、いじめの実態も次第に明らかにされていく中、自分たちも何かしなればという熱い思いからこの協会が発足した。

現代社会の中で、子どもたちが「冒険遊び場作り」をめざし、まず全国各地の情報を集めた。そして、その手始めに、仲間と関わる楽しさを伝えるように、毎月一回、市内の公園に集まった子どもたちと遊ぶ体験の場を設けている。

子どもと一緒に出かけられるのは「家族で遊ぼう!」ほんの一時期……

■入間川沿い

黒須運動公園や西武地区の中橋付近に遊べるポイントあり。休日になると家族連れが目立ち、川遊びが楽しめる。

○魚やカニがいてあきません。自転車の練習がてら、サイクリングコースを走ったりします。
仏子 5歳の子を運れた父親



■県営彩の森入間公園

入間市駅から徒歩15分 24時間開園
今年、基地跡地にオープンした公園で、池や芝生があって楽しめる。

○自転車の練習に来たのですが、季節がら水遊びになってしまいました。危険がなく安心して遊べるところです。
上藤沢 10ヶ月と5歳の子を運れた母親

■加治丘陵

緑豊かな散策コースがあり、桜山展望台からの360度のパノラマもおすすめ。

○時間があるとここに来て、何分展望台まで上がれるか競争して遊んでいます。
下谷ヶ費 小3・4児童3名



■児童センター

開館時間 9:00~17:00
月曜休館
☎963-9611

子どものためのイベントが盛りだくさんの施設で、市内各地域、所沢、飯能、狭山からの親子連れも多い。人気はプラネタリウム、アマチュア無線やパソコンの体験学習。幼児にはトランポリンなどの体を動かす遊具が好評、1日平均約400名の来館者がある。

○友達とよく来る、いろいろ楽しめるから大好き。 小5 児童

○家の近くにもこんな施設が欲しい。

○ボランティア(約100名が活躍)のきめ細かい配慮を感じて、安心して過ごせるので嬉しいです。
以上、保護者の皆さん

■入間市博物館市民広場

広場開放時間 8:30~20:00
月曜休館
☎934-7711

博物館敷地内にある芝生の広場。コンサートや大茶会などのイベントも行われる。

○近くなのでよく来ます。ボール遊びのほか、とにかくおもいっきり走りまわって楽しんでいます。
宮寺 小3と5歳の子を運れた母親

■ 伝承の中で子どもが育つ

藤沢獅子舞保存会



藤沢獅子舞は、約七五十年の歴史があるといわれています。その継承者を育て、いきまきと活動している下藤沢の沢田重夫さんにお話を伺いました。
現在指導している子どもたちは幼児から大学生までの十数名。
練習は厳しく、手取り足取りで教えない限りありません。もちろん、続かない子もいますが、稽古を終えた後の子どもたちの笑顔が嬉しいと目を細めて語ってくれました。

かつて獅子舞はおじいさんからお父さん・孫へと受け継がれてきた。練習は厳しく、手取り足取りで教えない限りありません。もちろん、続かない子もいますが、稽古を終えた後の子どもたちの笑顔が嬉しいと目を細めて語ってくれました。

入間市では他地区でも、このように伝統芸能が伝えられ、熱心に後継者を育てています。
「楽しいから来る」という子どもたちの言葉に、かけがえない彼らの居場所を感じました。

できました。沢田さん自身もそのようにして覚えたそうです。藤沢地区では二十年程前から転入者が次第に増え、保存会ではこの人たちに積極的に声をかけ迎え入れてきました。
今、おじいちゃん・おばあちゃんとの同居が少ない中、五才から七十代、八十年代までという幅広い年齢間での交流は、目には見えないたくさんの大事なものを与えてくれるでしょう。
「楽しいから来る」という子どもたちの言葉に、かけがえない彼らの居場所を感じました。





企画編集：入間市生涯学習をすすめる市民の会
発行：入間市教育委員会生涯学習課

題 字：宮沢 匡君 (17才)

かがやく

● 特集 子どもの「そだち」を応援しよう(中学生・高校生編)



撮影 高橋 徹也さん(宮寺)

おぼろかしい年頃と、いつの時代でも言われている中学生、高校生。最近では、おぼろかしい上に「こわい」時さえあります。感受性が強く傷つきやすい、が、平気で人の痛いところを突いてくる。子どもであり、もう大人。

「どんな複雑になってくる社会のしくみの中で次の扉が見つけられず」きれいな状況や自ら命を絶つてしまつて悲しい事件も後をたまたません。

彼らとどのように向き合つていこうかというのか、近頃の子どもの夢も希望も語らないというふうな一方的な大人の判断を下す前に、もっともつと彼らの「おもい」や「考えていること」を聞いていこうとすべきでしょう。

深夜に長電話し、どんな場所でも携帯電話を握りしめている彼らは、なにが話をしたがっているように思われます。目をそらさず、同じ目線で対等に話してみよう。

今回は「おぼちゃん取材班」が、とにかく彼らと会ってみようという街に出かけました。

(4)

■ 子どものことで困った時は気軽に相談してみましょう。

一人で悩んでいないで 家族だけで悩まないで

- 乳幼児の発育・発達のこと
保健センター ☎962-2822
各地区公民館でも、乳幼児相談日を設けています。(要問合せ)
もよりの保育所・保育園・母子保健推進員さんにも気軽にお尋ねください。
- 子どもの性格、知能、言語、情緒障害、非行、家族関係等
市児童福祉課 ☎964-1111 (内線1354)
- 言語相談、子どもの性格・行動、不登校、いじめ等の相談
教育研究所 ☎964-8355 (面談の場合は要電話予約)
小・中学生のための悩みごと電話相談 ☎964-7830
- 学校全般に関すること
市学校教育課 ☎964-1111 (内線4141)
- 青少年の悩みごと
相談日毎月第1・3水曜日 (13:00~16:00)は
教育研究所相談室 ☎964-8355
くわしくは市生涯学習課 ☎964-1111 (内線4124) まで
お問い合わせください。
- しつけ、発達のおくれ、不登校、非行など
子どもについてのあらゆる相談
県所沢児童相談所 ☎992-4152
- 子どもの性格や行動、いじめ、学校生活の相談
県立南教育センター 指導相談部 ☎048-874-8134
よい子の電話教育相談 ☎048-874-2525
フリーダイヤルいじめ電話相談 ☎0120-86-3192
- いじめ等電話相談
入間教育事務所 ☎0492-42-1805 (内線319)
- 子どもの非行、家庭内暴力、しつけなど
埼玉県警察少年センター ☎048-865-4152
こころの電話 ☎048-723-1447
埼玉いのちの電話 ☎048-645-4343

※各地区の民生・児童委員さんにも気軽にご相談ください。

子どもをテーマにしたイベント案内

「子どもなんでも広場」第一回講演会

- テーマ 子どものことは子どもにならえ 主催するのは、元気いっぱい若いおかあさん
- 講師 斎藤次郎さん 『子どもなんでも広場』では、子どもと子育てに
- 日時 11月3日(祝) 13:30~15:30 関心のある人のための講演やコンサートを企画し
- 場所 入間市立図書館2階集会室 ていくそうです。
- 参加費 2000円 講師の斎藤さんは、入間市在住の、子どもの視
- 連絡先 ☎966-9540 中島 点に立つ教育評論家。著書は入間市立図書館にも

■ 第4回いるま生涯学習フェスティバル

- と き 12月6日(日) 10:00~15:30
- と ころ 入間市産業文化センター・図書館・児童センターほか
- テーマ 「共生」

- ・講演「いつでも友と音楽と」
- ・映画上映「裸の大將放浪記」(117分)
- ・軽スポーツ
- ・ミニオリエンテーリング
- ・情報交換コーナー
- ・広報紙自慢コーナー
- ・絵てがみ展
- ・展示、実演、販売による生涯学習の成果発表
- ・生涯学習エッセイ集「かがやくスペシャル」発行(当日配布)

ご家族でぜひお越しください。くわしくは下記生涯学習課まで。

お問い合わせ・連絡先

〒358-8511
入間市豊岡1-16-1
入間市教育委員会生涯学習課内
入間市生涯学習をすすめる
市民の会 事務局
☎042-964-1111
(内4123)
FAX 042-964-4841

この情報紙は再生紙を使用しています。

題字「かがやく」は...

二年前、アメリカのオレゴン州から来たアンドリュー君が書いてくれました。日本の生活にもすっかりとけこみ、クラスの友達とも仲良し。野球とサッカーが大好きな明るい少年です。



「かがやく」は生涯学習にかかわることちよつと言いたいことと、その他さまざま提言・寄稿・アイデアなどいつでも大歓迎の「なんでも帳」です。今号は、強力なボランティア・スタッフの方々に加わっていただきました。

便利な情報紙づくりは市民の手で！読者のみなさんもお気軽に参加してみてください。

次号は、中・高校生編で、来年三月発行予定です。

中学生・高校生に聞きました!

入間市の中・高校生330名に、市内の各地区でアンケートに答えていただきました。できるだけ原文のままのこぼれ、多くの声を掲載しました。
(アンケートにご協力ありがとうございました)

自分って? 大人って? 夢って? 育ちの中で何を見て、何を感じて...

中学生 (女)	中学生 (男)				
学校の体育館カサヤス のボーリング場 自分の家 彩の森入間公園 入間市立図書館 入間市立図書館 博物館アリーナ サッカーの練習場所な 近隣の公園 自分の部屋 本屋 不老川 林・茶畑	学校の体育館カサヤス のボーリング場 自分の家 彩の森入間公園 入間市立図書館 入間市立図書館 博物館アリーナ サッカーの練習場所な 近隣の公園 自分の部屋 本屋 不老川 林・茶畑	●入間市の中で気に入っている場所は? ●どんな大人になりたいですか? ●あなたって一言でいえばどんな人? ●将来の夢は?	学校の体育館カサヤス のボーリング場 自分の家 彩の森入間公園 入間市立図書館 入間市立図書館 博物館アリーナ サッカーの練習場所な 近隣の公園 自分の部屋 本屋 不老川 林・茶畑	●入間市の中で気に入っている場所は? ●どんな大人になりたいですか? ●あなたって一言でいえばどんな人? ●将来の夢は?	
彩の森入間公園 カラオケ 自分の家 まろひろ周辺 武蔵藤沢駅 ブリーロンツからの夜景 博物館アリーナ周辺 入間市立図書館 桜山展望台 ともだちの家 学校 おばあちゃんの家 へへ	彩の森入間公園 カラオケ 自分の家 まろひろ周辺 武蔵藤沢駅 ブリーロンツからの夜景 博物館アリーナ周辺 入間市立図書館 桜山展望台 ともだちの家 学校 おばあちゃんの家 へへ	カッコいい人 仕事と遊びの両方楽しめる人 仕事のできる人 腹黒くない人 ふつうの大人 希望した仕事にできる人 誠実な人 大人らしい大人 金持ちでやさしい人 父親みたいな人 矛盾のない人 誠実な人	カッコいい人 仕事と遊びの両方楽しめる人 仕事のできる人 腹黒くない人 ふつうの大人 希望した仕事にできる人 誠実な人 大人らしい大人 金持ちでやさしい人 父親みたいな人 矛盾のない人 誠実な人	しゃい 空な人 まじめな人 無愛想 陽気な人 やさしい人 自信がある人 スポーツマン カッコいい人 ふつうの人 わんぱうな人 たんぱく 馬鹿正直 明るい人 自分勝手 ドジな人 愛嬌がない人 バカだけどやさしい ボーイッシュな男 男っぽい うさぎの尻尾 さあさあめ ちょつとツンツンしてて いい人 悩んでいる姿を人に見せ ない	しゃい 空な人 まじめな人 無愛想 陽気な人 やさしい人 自信がある人 スポーツマン カッコいい人 ふつうの人 わんぱうな人 たんぱく 馬鹿正直 明るい人 自分勝手 ドジな人 愛嬌がない人 バカだけどやさしい ボーイッシュな男 男っぽい うさぎの尻尾 さあさあめ ちょつとツンツンしてて いい人 悩んでいる姿を人に見せ ない
大富豪 公務員・親が豊か 版読作家が普通関係 大学を出て海外で働きたい ゲームプログラマー 自然に生きて 「学生生活」と感じて やる生活 エンジニア 自分を極めた人間 経済力をつけ幸せな家庭を築きたい 結婚して幸せに暮らす 人の役に立つ仕事に このこと 幸せな結婚をする 何もしていない暮らし 福祉関係 ひたすら働き、そのお金で好きな暮らし 医療関係 NASA 国際公務員 一人暮らし 自立した人間になる TOP STR 警察官 刑事 おひよん					



中学生・高校生の会「BOX」

入間おやじ劇場は、生の舞台鑑賞を通して、子ども達の友情と自主性を育み、感動するしなやかな心と創造力に富んだ子どもの成長をはかることを目的に、十九年前に入間市に誕生しました。四才から六十四才まで六百数十名の会員がいます。その中で、「中学生・高校生の会」は約三十名「BOX」として活動しています。「BOX」の名前は、子ども達自身決めました。「いろいろな思いを大きな箱に詰めてい詰りたい」との願いが込められています。

日常では体験できない遊びや交流を通して、主体的にかかわれる場所になっています。月一回の集まりを自主的にもち、学校、友達の家などの情報交換や、活動の企画を話し合っています。初めは、来てても何もかやべらなかつた、何人かでかたまつて参加しないなどで、テーマを自分達で決めて話し合いにはならなかつたそうです。今では、目的をもち、それに向かって進められるようになりました。こつても長い時間がかかりました。「BOX」にかかわる大人も、子どもと対等に向き合っていくために、実践の中で学んでいます。

一人ひとりの「違い」を認め合つてこそ語つていけると、支える大人は誰かになりました。子ども達は、部活や塾で忙しくしているにもかかわらず、「BOX」の必要性を、実感しました。

入間おやじ劇場事務局
☎九六二七七一九

アンケートを終えて

どれだけの回答が得られるのか、期待と不安があった。気に入っている場所では「コンビニ」や「学習塾」という文字は見られない。「家」という回答が「家庭」という意味も含んでいるとしたらうれしい。どんな大人には、こうあってほしいという私達大人へのメッセージも伝わってくる。夢では、経済社会の世相が見え隠れするものの、自分の意志で理想を語ってくれている。

なお、全項目に共通して「ない」「わからない」という回答があったが、ここでは省略させていただきます。 「えっ、これやるの?」とアンケート用紙を受け取った彼らが、照れながら私達と話し、書き終えてニコリ手渡してくれたとき、当初の不安も消えていた。



高校生 (女)	高校生 (男)			
自分の家 けやき通り 彩の森入間公園 入間市立図書館 愛宕公園 入間市駅周辺 サイオス 桜山展望台 本屋 仏子駅 草や木の残る自然のまま 車の通りの少ない所 林業町(国分町)	自分の家 産業文化センター 富士見公園 学校 入間市駅周辺 入間市立図書館 金子駅 モスバーガー 古本屋 カラオケ 入間川 金子公民館 桜山展望台 市役所	穏やかで温厚な大人 いつても夢を持った大人 自分の好きなことがやれる人 枠にとわれない大人 大人らしい大人 尊敬される大人 モスバーガー 主張できる人 この辺にしような人 転んでも立ち上がる人 おもしろい大人 賢く弱のいい人 ムカつく大人	一言ではいえない おもしろい人 責任感のある人 友達思いの優しい奴 人見知り 友達が多いけど、孤独なヤツ やさしい人 お笑い芸人 クールな男 暗い めげない まじの 案理的な人 あきっぽい人 「自分」を出さない 根性無し どこにでもいる普通の高校生です 喜怒哀楽が激しい 自分で決めた事は人に譲らない やむ通ず人 いいかげんな人 明白な人 フーパーレディー ちよつとおかしい	大富豪 公務員・親が豊か 版読作家が普通関係 大学を出て海外で働きたい ゲームプログラマー 自然に生きて 「学生生活」と感じて やる生活 エンジニア 自分を極めた人間 経済力をつけ幸せな家庭を築きたい 結婚して幸せに暮らす 人の役に立つ仕事に このこと 幸せな結婚をする 何もしていない暮らし 福祉関係 ひたすら働き、そのお金で好きな暮らし 医療関係 NASA 国際公務員 一人暮らし 自立した人間になる TOP STR 警察官 刑事 おひよん

地域を支えるニューパワー「金子おやじの会」



秩父の山並みを背景に、緑の茶畑が続く金子地区に、入間市立金子公民館はある日曜日、この事務室を自由出入りする何人も中年男性が、気軽に声をかけ合っている。「金子おやじの会」のメンバーである。公民館主催の「おやじの趣味講座」が、現在会員は20名ほど。料理・遊び、農作業、釣り、小旅行などを、月一度の割合で計画する。「遊んでるだけ合ですよ」と謙そんするが、活動は幅広く、ジュニアリーダーの世話役としても、小中学生と共に加治丘陵の自然たんけん会やもちつき、祭りの出店に参加した。また、会員の専門性を生かしたインターネット講座は、「おやじ」の機動力により、勤務先の施設や小中学校のパソコン教室を使って行われ、充実した内容になっている。公民館を通じてネットワークが広がると、その活動はまるで「地域のおとうさん」らしい。

「おやじの会」という名称ではあるが、会員の条件に制限はなく、活動はオープンな心で「奥さま」子ども、近所の方をさそつてわいわいやりましょつて」と、会報で呼びかけている。

連絡先 金子公民館
☎九三六一一七



春～初夏の主な入間市生涯学習イベントカレンダー

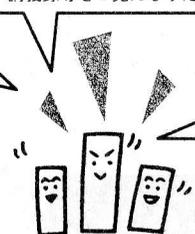
3月	21(日)	彩の森クロスカントリー大会	彩の森入間公園
	27(土)	入間市民音楽祭	市民会館
	28(日)	入間市自然かんざつ会(早春の雑木林)	集合場所・高倉公民館
4月	1(木)～3(土)	児童・生徒なぎなた教室	市民体育館
	4(日)	東金子さくらまつり	東金子公民館
	4(日)	入間市中央少年少女合唱団定期演奏会	産業文化センター
	10(土)・11(日)	入間市生け花展	産業文化センター
	11(日)	加治丘陵さくらまつり	駿河台大学
	17(土)	チェルノブイリチャリティコンサート	市民会館
	24(土)	親子おもしろ体験(野外炊事)	入間青年の家
	25(日)	入間市民親善囲碁大会	産業文化センター
	29(祝)～5/5(祝)	リサイクルプラザオープニングイベント	リサイクルプラザ
	5月	1(土)～6/13(日)	特別展「北限への旅路～茶の自然と歴史を訪ねて～」
初旬		八十八夜新茶まつり	市役所前
3(祝)		入間茶祭り	鍵山茶町通り
13(木)～16(日)		入間市野鳥展	産業文化センター
13(木)～7/1(木)		なぎなた教室	武道館
15(土)		春の茶会	博物館
22(土)		『ハウンドドッグ』コンサート	市民会館
23(日)		花と緑に親しむつどい	博物館南側館庭
23(日)		グリーンウォーク	入間川沿い
29(土)・30(日)		アウトドアライフ免許皆伝塾	入間青年の家
6月	30(日)	埼玉県なぎなた大会	市民体育館
	31(月)～6/4(金)	環境展	市役所
	12(土)	わんぱく相撲入間場所	市民体育館
	12(土)	(仮称)いるま太鼓セッションスペシャル	産業文化センター
	13(日)	インディアカ大会	市民体育館
	13(日)	入間市民吹奏楽団定期演奏会	市民会館
	18(金)～20(日)	入間市書道人展	中央公民館
	20(日)	3ON3バスケットボール大会	入間青年の家
	26(土)	親子おもしろ体験(うどん作り)	入間青年の家

※各行事のお問い合わせは、市生涯学習課 ☎964-1111 (内線4123) まで。

お知らせ

6月上旬、市教育委員会生涯学習課より、「平成11年度版生涯学習ガイドブック」が発行される予定です。生涯学習に関するイベント情報満載、最寄りの公民館等公共施設でご覧ください。

昨年12月6日に開催された第4回生涯学習フェスティバルは、延べ5000人の参加者があり盛況のうちに終了しました。記録ビデオ、講義録等をご覧になりたい方は下記事務局まで。



市教育委員会と入間市生涯学習をすすめる市民の会では、「入間市生涯学習サークル・団体情報」を収集しています。詳しくは下記事務局まで。

お問い合わせ・連絡先

〒358-8511
入間市豊岡1-16-1
入間市教育委員会生涯学習課内
入間市生涯学習をすすめる市民の会 事務局
☎042-964-1111
(内線4123)
FAX 042-964-4841



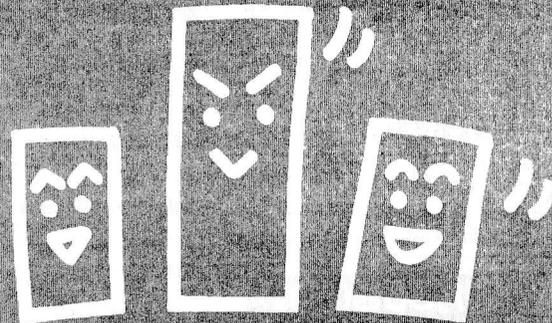
中・高校生達がいつも気軽に集まってくる金子公民館。珍しい光景だ。図書館が併設されている、職員がおおらかに受け入れる、そしておやじ達が関わっていることもその要因らしい。入間市内では、あちらこちらに地域と子どもに目を向け始めたおやじの会が出てきた。そこには、人間関係もいず、おやじ、もっと頑張り子ども達を頼むよ!

題字「かがやく」は……
東野高校の二年生、宮沢匡君。書道を選択しています。同校の授業では、手本に従って書くのではなく、一人一人のイメージをふくらませて文字を表現します。若々しく、やさしい「かがやく」になりました。



強制
しません。
矯正
しながら、
共生
しよう。

テーマ
共生



平成10年12月6日(日) 10:00～15:30
入間市産業文化センター・児童センター他

主な内容 ピアノコンサート・ミニ講演会・ディスカッション・展示・実演・即興・格闘ホビー・ミニオリエンテーリング
共 催 入間市 入間市教育委員会 (財)入間市産興公社 入間市生涯学習をすすめる市民の会
主 管 いるま生涯学習フェスティバル実行委員会
協 力 入間市消防本部 入間ケーブルテレビ エフエム入間 (社)入間青年会議所 キノシタ楽器 シグマ光機
協 賛 日本生命保険相互会社所沢支店 NTT所沢支店 城西大学 東京家政大学 東野高等学校
問 合 せ 入間市商工会 入間市金融団 入間市観光協会 入間市茶業協会 入間郵便局 NTTドコモショップ入間店
入間市教育委員会生涯学習課内 ☎042-964-1111(内線)4123

第4回いるま生涯学習フェスティバル

第4回いるま生涯学習フェスティバル 平成10年12月6日(日)



いるま生涯学習フェスティバルは、皆さんの生涯にわたる学習活動を応援するイベントです。悩み多き現代、このまちで楽しく「共に生きる」ためのヒントを探してみてください。

特別企画

●オープニング 島筒英夫 ピアノコンサート&トーク
「いつでも友と音楽と」 10時~11時15分
明るく前向きな音目のピアニスト、島筒さんが作る曲は生きる喜びを教えてください。 定員400名 申込あり

●公開ディスカッション
I・IIとも11時30分~13時 定員各30名 申込あり

I 「家庭、学校、地域の連携」
子どもが生きていく力や楽しさを身につけるために、地域の大人たちが何をすべきか、何が出来るかを語り合ってください。

II 「夢のまちづくり」
飛び立つ青年たちが羽を休めにくる帰郷の故郷入間のイメージは？平成11年に成人式を迎える方々を中心に夢を語っていただきます。

●ミニ講演会
I・IIとも13時30分~15時 定員各40名 申込あり

I 「女(ひと)と男(ひと)とのパートナーシップ ~さまざまな家族の中で~」
講師 豊沼康子 城西大学女子短期大学助教授
家族の危機が叫ばれて久しい現在、家族とは何なのか考えていく中で、女性と男性のよい関係をさぐってみましょう。

II 「ほけても普通に生きられる」
講師 堀越栄子 日本女子大学家政学部助教授
浦和市で痴呆性老人のデイサービスを続けるNPO「生活介護ネットワーク」がめざす地域の支え合いとは。

●かんきょう井戸端会議 14時~15時
入間の身近な環境について気軽に話し合ってみませんか？

知っておきたい

- 消火シミュレーション・消防はしご車の試乗
- 環境にやさしいゴミ分別クイズ
- 環境と食生活
- 生活設計診断
- 福祉コーナー(点字・手話・車椅子体験・ボランティアサークル紹介)

申込のみは **11月30日(月)** まで
入間市教育委員会生涯学習課内フェスティバル実行委員会事務局
042-964-1111 内線4123
各募集要項は公民館等に置いてあります。

フェスティバル タイムテーブル

9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	15:30
セラー文化センター 和室・2階集会所 ロビー・中庭 1階和室・3階研修室	受付	オープニング ピアノコンサート				歌・演奏・抽選会	
			見る・つくる・食べる・やってみる				
			公開ディスカッション	ミニ講演会			
			本の読み聞かせ ほか(11時・13時・15時に実施)				
			公開ディスカッション	ミニ講演会			
					映画上映会		
			いっしょに作って遊ぼう・軽スポーツ	ミニオリエンテーリング (受付11時30分~14時00分)			

☆内容等変更の場合はご容赦ください。 ☆お車で越しの方は、市役所駐車場をご利用下さい。
☆「第4回いるま生涯学習フェスティバル」は、「学び輝く彩の国県民運動」に協賛しています。

やりたいことをみつけたい

- 手作りの楽しさ発見! 実演・展示・即売
しめなわ・ドライハーブとパンのクリスマスリース・はぎれのお手玉・卵パックの造花・鹿油石鹸・篆刻・写真・ガーデニング・皮クラフト・箱物とジーンズのリフォーム
- コンピュータともっとなかよく
テレビ電話・インターネット簡易・年賀状作り・ペーパークラフト・姓名判断
- 誰にでもできる 軽スポーツ
ユニカール・シャフルボード・ダーツ
- 親子でいっしょに遊ぼう (児童センター)
もちつき・おもちゃづくり・布芝居・おはなし・音楽療法・ミニSL 10時~14時
- 広い公園走って、歩いて、ミニオリエンテーリング (彩の森入間公園)
タイムトライアルではありません。気軽に参加を
※当日の受付は児童センター前
お車で越しの方は、市役所駐車場をご利用ください。
- 子どもの本の楽しい世界 (図書館)
本の読み聞かせ・手あそび・紙人形劇 ほか

知っていますか入間市のこと

- 入間クイズ 入間市に関するクイズに挑戦・豪華景品も当たる
- 入間市ホームページまつり
- 市内生涯学習施設紹介 ●刊行物販売コーナー

みてください私達の生涯学習

- 絵手紙展
皆さんの描いた絵手紙の公開作品を展示。
- いるま映画愛好会による名作映画上映 図書館3階 13時~15時
「環の太鼓放浪記」(1981年公開。天才画家山下清の一生を描く。)
- 生涯学習情報交換コーナー 展示希望の方へ 申込あり
生涯学習活動に関するポスターやイベント・サークルなどの情報を展示します。パンフレットチラシもお預かりします。
- 記念誌「かがやくspecial 2号」発行
学ぶことの楽しさや、学習活動を通じて得た友達のことなど、すばらしいエッセイを掲載! 当日、受付で無料頒布しております。
- 私たちの広報紙自慢 展示希望の方へ 申込あり
学校・職場・団体・個人で発行している広報紙を一堂に展示。相談員が紙面作り、予算等の質問にもお答えします。
- 休憩コーナー
お茶を食べよう...お茶を使ったアイデア料理色々
体と地球にいいものを食べよう...エコクッキング

◆◆エンディング 産文センターホール 14時~15時30分◆◆
吹奏楽・みんなで歌おう・入間クイズ抽選会

第4回フェスティバル 参加団体一覧

●実演・販売・展示

No.	参加団体・個人	代表者	No.	参加団体・個人	代表者
1	NTT所沢支店	滝澤 実春	14	皮革工芸研究会	関根 桂子
2	パソナコン塾入間市駅前教室	小林 慶子	15	人間篆刻クラブ	和田 和子
3	けやき作業所		16	入間六ツ星会	尾平 貞子
4	入間市食生活改善推進員協議会	平賀くすみ	17	シグマ光機	関川 八郎
5	よもぎの会	樽見貴美子	18	アースディ98% 入間実行委員会	柴田 桂子
6	cotton garden 節	佐々木節子	19	入間おやこ劇場	小沢 妙子
7	入間市ボランティアセンター	社 福 協	20	黒須中学校PTA	水村 雅啓
8	入間市手話の友の会	斉藤美佐子	21	城西大学貯蓄推進委員会	下野 武司
9	環境と食生活に関する研究	中室 佳子	22	環境課	
10	生け花研究会(ロマラン)	荻野 道子	23	広報広聴課	
11	パンフルート	神谷 芳雄	24	みどりの課	
12	日本生命所沢支社	山中 英雄	25	消防本部(消火シミュレーション)	
13	東金子写真サークル	中丸 了彦	26	学校教育課	

●児童センター

1	ガールスカウト	徳永千代子	6	ドロシーズ	中島 理子
2	入間おやこ劇場	小沢 妙子	7	はしご車の試乗	消防本部
3	ミュージックセラピーポコの会	望月 雅枝	8	もちつき	森仲の会
4	おもちゃづくり	中島 茂	9	もちつき	金子おゆい会
5	おもちゃづくり	加藤 稲造	10	もちつき	金子ジュニアリーグ

●図書館棟、中庭、彩の森公園

1	いるま映画愛好会	浦野 厚	6	しめ縄づくり	西野 昭三
2	どんぐり	斉藤 幸子	7	ACTI(アクティ)	平 広海
3	企画課、女性セミナースタッフ		8	軽スポーツ	斉木 安雄
4	入間オリエンテーリングクラブ	田中 博	9	ガーデニング	ドイツ入間店
5	清掃課		10	ボーイスカウト	多賀 進

●ホール・その他

1	島筒さんをお呼び会		4	「IRUMAここから」合唱隊	
2	入間市童謡連盟	有馬 麗子	6	入間ケーブルテレビ	
3	豊岡中学校吹奏学部		7	FM入間	

「女(ひと)と男(ひと)とのパートナーシップ」 ～さまざまな家族の中で～

日 時 平成10年12月6日(日) 13時30分～15時30分
 会 場 人間市産業文化センター 3階研修室
 講 師 蓼 沼 康 子 (たぐま やすこ) (城西大学女子短期大学部助教授)
 共 催 人間市企画部企画課
 企画運営協力 男女共生セミナースタッフ

講演要旨

◆女性でも「男性の目」

たとえば研究という分野において、これまでは研究者といえば男性が多くを占めていた。研究の対象もしかり、その他社会的組織・分野に限らず男性がこれらに当たるのが普通であった。

男の目(見方、考え方)は男性でなくても、女性も持つことができる。様々なことを見習い身につけてきた女性たちは、現在でも「男性の目」で行動することが数多くある。例えば日常生活によくあるお茶くみにしても、女性がお茶をいれるのは「女性の目」ではなく「女性がお茶をいれるのが当たり前」であると「男性の目・常識」が女性にまでも染みついていて「お茶くみは女性」となってしまう。無意識の通念がこれである。

大学に限らず会議のお茶に、ポットと紙コップが用意してある(つまりセルフサービス)場合でも、女性がなんとなくお茶くみをしてしまうのは珍しくない。お茶は会議の潤滑油、ティーブレイクは欠かせないものであるが、周囲から見れば年上の女性がお茶くみに立つと若年の女性がやらないのはおかしい、と思ってしまうこともあろう。また紙コップでも使い終われば男性はそのままにして退場し、概ね女性が後片付けをする。男性は悪気はないのかも知れないが、気配りをしないことが多い。

年上の女性がお茶をいれ後片付けをしてしまうと、若い女の子たちや男性に対する当てつけのようでイヤな奴と思われるかもしれない。ところが本人は「お茶くみを女性がするのは当然」という先入観が染みついていてので取

り立ててイヤとは気づかない、従って自分の行動に違和感も持たず改めることもない。男女に限らず、身にしみついている習わしの一例であり、文化の違いである。文化というのは無意識のものであるが、異文化はあえて外国へ行かなくても年代層異文化を生活の中にも感じることができる。

◆マイノリティと多様性

人間の肌色は人種により異なる。日本の色エンピツのカラー名に「肌色」というのがある。日本人がイメージしている肌の色を以て「肌色のエンピツ」と命名しているが、人の肌の色は必ずしも一色ではない。ところがこの肌色の問題でも大勢の方が力をふるう。少数であるマイノリティは、このエンピツを「肌色」と呼ばざるをえなくなる。これがマイノリティのパターンである。

「年上の女性がお茶をいれる」例のように、社会的習慣がしみついていると、自分のしたことが普通ではないことに気付かない。

意見の異なる人に「うん！」と言わせるのは難しいし、同意見と言わせたところで生産的と言えるだろうか。「異なる」と「対立」は同じではない。異なるから新しい関係が展開できるのであり、異なることは悪いことではない。多種多様であることを認識するのが第一歩であり、グローバル化、画一化をしないでお互いに「異なる」ことを認め合う訓練が必要である。

◆ライフサイクルの変化・家族・結婚

生き方は変化していく、その多様性を認める時期である。結婚はしてもしなくても良いと認めることなど、ほんの数十年前は通用しなかった。結婚しない女性は「しない」のではなく何か欠陥があって「できない」とさえ言われたものである。

普通でいる、幸せそうに見えることは必ずしも幸せではない。幸せは自分がそうだと感じていればそれで良いのである。ただし自分でしっかり幸せを築き上げ、感じるのは容易なことではない。普通であることで安心し安定感をもつ。イヤなこと、不幸と思われることでも、皆がそうであれば何とかやっていけるものである。

家族はかくあるべきという姿はない。学生たちは日本の家族は父親が大黒柱というイメージを持っており、「ちびまるこちゃん」「サザエさん」という大家族をほほ笑ましいと感じている。

姓の問題についても、明治の旧民法により夫の氏を名乗ることが規定された。つまり同姓はわずかここ100年のことである。同民法によると女性は

財産管理能力がないとされてきたが、今や女性が生き方を変える時である。女性が変わらなければ、家事、育児、仕事等全てが女性の上のしかかってくる。女性は家にいるべきという考え方は次第に無くなっていくだろう。

結婚生活が人生の全てではなくなってきた。寿命が延びたことが決定的な要素である。昔は「結婚～育児～一生の終わり」が普通であったが、現在では子育てが終わった後20年～30年、なお自分自身の人生がある。子育てのあと、夫婦二人きりになる。その時「何かしなくては・・・」というライフサイクルである。

結婚は制度ではなく中身の問題になってきており「しなければならないもの」ではなくなる。以前のように永久就職ではなく人生のワンステップであり、選択肢の一つに過ぎない。結婚はなぜするのか、そのメリットを考える時代である。30～34歳の男性の4人にひとり「結婚はまだ早い」と考えている一方、女性は「結婚はしない」と、はっきり答えるのではなく「いい人がいたら」「急がない」と言い、結婚そのものの意味が変わってきている。結婚にいつまで今までの形を考えなおす時期に来ていることは確かである。

◆ジェンダーフリー

男らしく・女らしくではなく、いま社会はジェンダーフリーの方へ向かっている。

ジェンダーバイアスを悪いとばかり言うのではなく、ジェンダーバイアスの実態を見つめなおすことが重要である。

〔夫の労働力 + 妻の労働力〕とで役割分担・分業はうまくいくが、外で働くほうが優位という考え方には問題がある。専業主婦の場合、家族を通してのみ「仕事をした」という達成感を持つ。夫が仮に職場で上司に叱られて帰宅し、何の関わりもない妻の料理に不満を示すと妻は不安定になる。評価を欲する人間は、子供が大学に入学できたのも、妻の功あればこそ認められるといった「評価」がないとやっていけない。

最近のある調査によれば、女性は結婚相手の経済力に重点をおいているが、男性が最もアピールしたいと思っていることは責任感であり、経済力はその後に来ている。専業主婦を理想的コースとして選ぶこと、家計を夫ひとりの収入で支えていくことが、今後続くかどうか疑問である。

◆ま と め

女性は家族のあり方に影響され、その一生が決まってしまったものである。加えて現在では介護の問題がある。パートをしている妻が仕事をやめて介護にあたるケースは少なくない。女性が思うほど男性は家族について考え深く関わりをもってきたのだろうか。現在の家族のあり方、男女のパートナーシップについては、新しい考え方と昔のそれが混合した形になっているのかも知れない。

会場参加者とのQ&A

Q：男女のあり方、家族のあり方について、一言でいえば男性はどのように関わっていけば良いのか。

A：妻の話に耳を傾ける、妻の立場になって物事を考える、妻のやり方を観察する。最終的には女性学など無くなるかも知れない。男女を問わず人間であることに変わりはないから女性という前に人間として認識・尊重することだ。社会で女性を意識するのは「男性と違う」「普通ではない一面がある」という固定観念があるからで、例えば女流作家などと言う必要はなく単に「作家」で良い筈である。

Q：現在ではもはや男性優位社会ではなく男女同等であり、学生にしてもむしろ女性のほうが元気がよい。女性は何かにつけて積極的である。政界でも一見男性が強いように見えるが実権を握っているのは女性だと思う。電車の中で女性の手荷物を棚に載せるのを男性が手伝ったりするのは、女性が弱いからではなく人間として手を貸すだけのことである。役割分担が定着しているものは敢えて壊さなくて良い。また家族の形は多様でよいし現在の形でも良い。男性より女性のほうが社会への適応性がある

A：今、男らしさ・女らしさは限界まで来ている。「らしさ」は文化である。猿之助が唱える女形の最たるもの「歌舞伎の女形」女性像を、現実の女性に押しつけるのは無理である。またユニセックス化していくのが良いとは限らない。

男性は男であるというだけで「普通」にしても課長くらいまで到達する可能性は与えられているが、女性は「普通」にやっついては平社員どまりがおおかたの現状である。従って、新しい社会への適応性があるということになる。

Q：男らしい女性が増えている。ジェンダーフリーの社会はおかしい。「らしさ」はあって当然である。

A：人間は男女とも弱くて愚かである。ジェンダーフリーが安定した社会とは限らない。「高校生らしさ」「・・・らしさ」と称される場合の「らしさ」は理想の形に近いものを指しているだろう。

Q：男性優位が崩れてきたのだろうか。女性は夫とより女友達との旅行を望むことが多い。女性は家庭内でも夫に気を使っているので、旅行は主人抜きの方が気楽で楽しいと言うのである。海外旅行で気付いたのは、アラブ系の人たちも日本人と同様の傾向があるのか、女性のみグループをよく見つけた。

A：夫と旅行したくないという気持ちを起こさせるのは男性のせいである。気配りは個性であるが、例えば何かの活動で女性が率先してリーダーシップをとると「仕切っていますね」とか言われ、あたかも女性の価値が下がるというような見方をされる。これはバイアスであろう。

日本では男女の間柄は異性の感覚で好きか嫌いかという判断になり勝ちで、男女が共に清く、楽しくエンジョイするという考え方が少ない。

Q：日本では異性を排除する傾向があると思う。おたがいに個性を尊重することが重要である。

A：小さい共同体では、出る杭は打たれるが、異性間のフランクな付き合いはあり、くだけた話もとり交わすし男女は自然体で混合している。ただし儒教的思想が入って来る前後で変わったのかも知れない。個性はアピールすべきであるが理解し合うには訓練を要する。

(記録：長谷川正子)



「ぼけても普通に生きられる」

日 時 平成10年12月6日(日) 午後1時30分～3時

講 師 堀越 栄子(日本女子大学助教授、生活介護ネットワーク世話人)

◆生活介護ネットワーク

◎「痴呆になってもその人らしい暮らし方がある。」

◎行政-政策として対応する、市民同志-支え合い：大切な役割分担

1. 生活介護ネットワークの経緯

※40歳代の女性が集まって「親や自分が年取っても安心して暮らせるか」と考えた

92. 5 発会「生活介護ネットワーク」-自分らしく生きたい→生活支援という発想

93. 5 シンポジウム「転ばぬ先の介護体験、与野市福祉どうなっているの？」

94. 3 「どうなってるの? 大宮市の介護福祉計画」

〃. 9 シンポジウム「ぼけても普通に生きられる」(スウェーデンの事例)

・「グループ・ホーム」：家庭的な小さな環境とその人にあったケア

〃. 秋 全農連の補助で31名の家庭、2人1組で介護の実態を調べて歩いた。

・医者診断を受けている人が少ない。

・家族が痴呆のこと、サービスのことをしらない。

家を貸してくれる、という話がある。→グループホームがいい。

(98. 11. 23開設「たのし家」開設)

・地元市の承諾が必要-施設基準等があわない。

・1日18万円必要(必要経費33万円)

デイサービス、バザー併設。チャリティーフラメンコショー開催。

・2000年4月 介護保険のメニューに入る。(東松山市「しんめい」)

96. 秋 シンポジウム「ぼけても普通に生きられるⅡ」(日本の事例)

※「アルツハイマー病」について

- ①痴呆と思ってもきちんと診断を受けること。
- ②今後、痴呆症はアルツハイマー型が増えるだろう。
- ③アルツハイマー型は初期、中期、後期で症状が決まっている。(学んであわてない)
- ④それぞれに対応した生活を作って、安心をあげることが大切。

※患者：時間の流れがゆったりとしているので、人とつきあうというのを思い出す。

2. グループ・ホームについて(スライド)

①日だまりの家(与野市一駅から歩いて10分)

- ・トイレは改造。150万円かかった(一口10万円無利子で借りた)
- ・月一回、地域の人と「会食の日」を実施
- ・ボランティア：20代～60代—いろいろな人がいた方がいい。
- ・薬を減らした方がいい場合がある。
- ・お医者さんから痴呆の症状について説明を受けたほうがいい。
- ・好きなことをさがすということが大切。—お手玉、おはじき、お人形…
- ・男の人：仕事が一番楽しかったということがあり—仕事に行ったりして大変。
- ・夫婦だけでは、会話が成り立たなくなるのが大変。
- ・子供が大好き。
- ・お台所仕事をしてもらう。—やれることはやってもらう。

本人にも役に立っているという楽しみ。

段取りは用意しておくよう。(家庭では難しいかもしれない)

- ・着慣れた割ぼう着を着る(白色等々)とやることを思い出す。
- ・痴呆のお年寄り同志で助け合いがある。
- ・介護しているご家族同志での助け合いがある。

月一回「家族の会」—やがて自立して活動。お掃除をする。→はげみになる。(出会いの中で生きなおしていく。)

「起こされなくて起きるのはこんなに気持ちのいいものか」という家族の感想

②たのし家(「たのしや」—浦和市大東、1998. 11. 23開設)

- ・簡易エレベーターを付けた。
- ・特養ホーム入所には「迷惑かけたら出る」という誓約書が多い。
→「一緒に話し合うという」ルールで皆で努力した方がいい。

3. 介護についての基本的な事項

○活動したら「よかったことがたくさん」あった。→自分で動き、主張する大切さ。

- ・痴呆、介護、家族の大変さへの理解が広まった—行政も認めてくれた。
- ・「ゆっくり、一緒に、楽しく」という対応が痴呆にとっても自分たちにも大切。
- ・家族の孤立感の緩和。
- ・家庭的なちいさな環境と適切な支援があればやれるという手法の確認。
- ・スタッフも大きな施設で追い回されるよりも、小さい方がやりがいがある。

○地域とのつながり

トイレ、お昼ごはん等々—子供も夕飯をグループホームで食べられるといい。

○医療と保健のネットワークもできてくる。

情報を返してあげる(薬の効果等々)

○基盤は必要—行政に望むこと

スタッフ、お金—行政に言うことは言っていないといけない。

「足りない、やっていないサービス」をやっている。

→行政と見せ合う。

介護保険のメニューにのっていても基盤がなければ実現できない。

投票行動で示すしかない。

○一般的状況

○家族だけによる介護には限界がある。

憎しみを感じたことがある(3人に1人)

虐待をしたことがある(2人に1人)

介護者は誰かという決まりがない。—見る人が辛くなる。

○家庭生活とは何か。

うまく回らなくなったとき→分析して、足りないところを取り入れる。

※足りないところを取り入れる場合、自分を犠牲にしない、生活を守りながら行う。

→施設の程度、内容が違う(ひどいところでは通帳を私物化している)

情報をきちんと確認する。契約内容を良く読む。—もとの暮らしが続くように

仲間を作る、社会的に助けてくれる仕組みを作る

○お年寄り－「病人」→「余生を送る人」→「意思決定の主体・人生を楽しむ現役」

- ・プロの視線：「これもできる、あれもできる」－電話相談も編み物もできる
- ・支援のあり方
日常生活を続ける。
その人が決定すること。 } 家族内、同士のネットワーク
持っている力を活用する。 }
「顎（食事）と足（外出）」が大切

行政：場所の提供

○介護保険：家族の出番が多くなる。

- ・お年寄りの状況ヒアリング
- ・見守りについては、認定がないので申し入れる（腰が弱っているのに歩き回る等）
- ・評価、不服、改善の申し入れ…等々

※憎まずに相手をみられるように環境を自分で整える。

◆質疑

Q：グループホームの基盤条件整備はどの程度しておけばいいか。

A：公的制度では、「地方対応型老人共同生活」という扱いになる。基準については、

- ・5～9人暮らせる、個室、共同生活できる（台所、お風呂、居間）
- ・3人につき職員1人——といったものがある。

※自分たちの施設では、6人のスタッフを置いている。週2日しか夜勤できないという法的な制約があるので、人員配置に工夫をしている。また、経済的に苦しい部分については、ディサービスを実施して、そのお金で補っている。

Q：2人暮らしが1人痴呆になったら困る。24時間1人雇うのは難しいので、グループホームがいいと思う。

A：グループハウス、リビングといった名称で共同生活をするという形や公的サービスをを組み合わせる方法もある。神戸震災のあとのケア付仮設でそういった形があった。共同生活の中では、相手と距離を取れる人がいいようだ。形はこれから考えていけばいいのではないかと思うが、共同生活の意味合いが失われるようでは困ると思う。行政も税制を優遇するという形が対応してくれるといい。（記録：梶原政憲）

参考資料

フェスティバル特別企画公開ディスカッションI

「家庭・学校・地域の連携」

日時：平成10年12月6日（日） 11時30分～13時

場所：図書館研修室B

参加者：30名

この短い時間の中で、子どもの育ちに係わる問題を話尽くすことはできなかったが、それぞれの立場、経験の中から、素直に意見がだされた。家庭、学校の話から、地域に向かって問題解決の糸口が提案されて行った中で、主だった発言をいくつか挙げて、まとめとしたい。

（家庭）

- ◆朝練習に始まる部活動、塾、バイト…子供は忙しく、親も忙しく、対話する時間、一緒に食事する機会も少なくなっている。
- ◆忙しくても、一緒に生活する中で伝わることもある。親と一緒に体験することをちゃんとやっておけば、年齢に達したとき、のびのびやっていたらだろう。
- ◆基本的な生活習慣、しつけ、という以前に、思いきり遊んでいないのではないか。遊びはプロセス自体が楽しく、解放される。人と比べなくてもよいし、子供同士が会える場である。
- ◆手をかけすぎていることが、子供から自立を奪っている。キャンプに参加してみても、自分から踏み出す体験をしたようだった。
- ◆社会を良くするためにも、自分の家庭を良くしたい。理想論だが、社会の一員としての家庭があると思いたい。

（学校）

- ◆社会全体が忙しく、余裕がなくて疲れている。学校も、結果だけでしか評価できない。プロセスが評価されない。
- ◆学校が開かれていなかったり、逆に責任を負いすぎたりしている。家庭との融合を考えていきたい。

- ◆生徒が問題行動を起こすのは、生きがいを見失っているからであろう。
- ◆行為は悪いけれど、悪い子ではない。勉強ができない子がプライドを持って生きていける道が、今の時代あるのか。認められ、自己肯定できる場が誰にも必要だ。

（地域）

- ◆昔はおせっかいな大人がいて、よく声をかけられた。今は赤ん坊のころからずっと見ている近所がいなくて、タバコを吸っている子にも注意できない。もっと声をかけていこう。
- ◆母が働いていたので、子どものころから自分で料理までやっていた。困ったときは、近所の人が助けてくれた。自分には地域関係が必要であった。
- ◆子どもが外で、没頭して遊ぶ経験、異年齢で遊ぶ時間が必要だ。それが地域にあるとよい。
- ◆子どもをとりしめるのではなく、育むことが大切。そのためにも大人のコミュニケーションは必要だ。地域で考えていきたい。
- ◆学校・家庭が責任を押し付け、責め合っても仕方がない。地域という器で支えられるのではないか。
- ◆金子地区ではPTAが中心になり、“おやじの会”も加わり、地域の子ども全体を対象にしたコンサートを開いたことがある。できることからやりましょう。
- ◆成長過程がわかれば、よその子にも声かけられる。地域にはいろいろな組織があるが、それらが手をつなぎ、先生も一員となり、行政も手伝う、という方法もあります。

（司会：松永輝義 記録：栗原良子）



参考資料

フェスティバル特別企画 公開ディスカッションⅡ

「夢のまちづくり」

日時 平成10年12月6日（日） 11時30分～13時30分

場所 入間市産業文化センター 1階和室

参加者 12人

①入間市長

②平成11年1月に成人式を迎える世代11人

全体の流れ

○最初に参加者全員が自己紹介と入間市についてコメントし、その後にコメントの中からテーマを集約し、テーマ毎に参加者や市長の所見を交えながら進めていった。

最後に、意見交換の中で提起された、質問事項に対する市長の考えを述べ、公開ディオンを締めくくったが、当初予定した時間をオーバーする程の活発なディスカッションであった。

概要（参加者の自己紹介と意見等）

- ◇ 小学校4年生の時に入間市に引っ越した。入間市は自然が多く、落ち着いたまちと感じる。今後においても、この自然を守り、子供から高齢者まですべての市民が住みよいまちにしていきたい。
- ◇ 小・中・高と入間市内の学校に通学した。現在、小4から始めた剣道を地元剣友会に在籍し活動している。また、入間市民劇団にも在籍している。入間市は大好きなまちであり、みんなもそう思うまちにしたい。
- ◇ 2才の時に入間市に引っ越し、小・中と入間市内の学校に通学した。小学生の頃、自転車で市内を散策すると、自然が多く感動した記憶が現在もある。今後も自然を残しながらのまちづくりをお願いしたい。
- ◇ アメリカのオハイオ州からAETとして来日し、豊中と東中で教え、現在4ヶ月が経過した。

◇ 入間市で生まれ育ち、現在、都内の福祉関係の学校に通学している。入間市は、高齢者や障害者のイベントが多いが、日常生活においてのふれあいが少ないと感じる。

◇ 入間市で生まれ育ち、子供の頃、茶畑等の自然豊かな場所で遊んだ記憶がある。現在劇団員として活動しており、他市にないイベントであるドラマフェスタを今後も継続していただきたい。

◇ 現在、神奈川県に大学に通学するために、単身でアパートに住んでいる。久し振りに入間市に帰りまち並み等の変化に驚いている。昨年予備校に通っていた時に思ったことであるが、都内の図書館に比べ入間市の図書館の利用時間が短いと感じた。都内に通勤している者は、平日の利用は困難であるので、建物整備よりソフト面（夜間開館）の充実をお願いしたい。

♡ 現在、大学で教育関係の勉強している。今年の夏に姉妹都市のヴォ市に青少年派遣事業で10日間訪問した。ヴォ市のみなさんから、あたたかい歓迎を受け良い経験した。

中・高と私立の学校に通い、日本の芸能（太鼓・踊り）に興味を持った。その関係で入間市の太鼓セッションや万燈まつりに関わりを持った。今後もこのような市民と協同するイベントがさらに盛り上がっていくことを望む。

◇ 現在、金子地区でお茶の製造業をしている。小・中は入間市内で、高校は都内に通学した。高校卒業後、静岡の国立茶業試験場で2年勉強し、現在に至っている。市内に我々と同じ若い農業後継者による組織が市内がたくさんあり、これらの組織で万燈まつり等に参加している。都市化が進む中で我々後継者により、狭山茶のブランドを今後も残していきたい。

♡ 入間市に生まれ、小・中と入間市内に通学し、高校は都内に通学した。家に大学の友達が遊びに来た時、桜山展望台に連れいったら友達が、家の近くにこんな素晴らしいところがあると、感激していた。わたしも誇りに思っている。現在、大学で国際関係学科の勉強をしており、国際交流に興味がある。入間市はドイツのヴォ市と姉妹都市を結んでいるが、私は学校で朝鮮語を学んでいる。みんながいろいろな国に目を向けて欲しい。所沢市には、ワークスクールがあるが、入間市内には少ないのでみんなが気軽

に学ぶ場所が必要と感じる。

♡ 都内で生まれ、小1の時に自然豊かな入間市に引っ越したため、喘息も治った。現在、音楽関係の短大で声楽を勉強しており、来年卒業する。

小～高まで入間市内の学校に通学し、高校では演劇部に所属していた。高3の時、入間市民ミュージカルに関わり、この経験が現在生かされている。又、この経験を友達に話すとうらやましがれる。田舎と言われるが、市民参加によるイベントを推進する入間市を誇りに思う。都市化が進む中、私の住んでいる新久に親水公園が完成したが、このようなみんなが遊べる場所が、さらにたくさん出来たらいいと思う。

★日本とドイツのまちづくりの違いについて参加者の意見

♡ ドイツの姉妹都市のヴォ市は、まち並みがきれいで、どの家もベランダに花がある。建物の色や大きさも同じで、統一性のあるまち並みで、ごみが落ちていない。緑の量は多くないが、入間市のように自然と町が別々ではなく、住宅地の中に人が緑と共生している。

■市長の所見

日本の文化は破壊の文化、つまり木造建築であってもコンクリート建築であっても、何十年したら壊し、また建替をする破壊の文化である。ヨーロッパの文化は保存の文化で、石のお城が意義ある建物であればこれを修理保存する考えが市民に定着している。日本にはこの考えがないため、法律より町並みを規制し、秩序あるまちづくりをしているのである。都市計画道路の建設の考え方も、ヨーロッパは、計画決定まで時間をかけ、計画が決定したら直ちに計画が強制的に進んでいく。市民の私利私欲を主張したことにより、まちづくりが停滞することは問題である。また、ドイツはまち並みが統一的で綺麗というが、私は反面画一的で問題もあると思う。

★福祉関係についての参加者の意見

◇ 昨年、市内の高校に車椅子の生徒が入学した。この生徒とのふれあいで、入間市内の道路の不便さや学校の設備及び先生の対応の不十分さを実感した。例えば、学校の保健室が、この生徒の休養室として利用が難しい状況であった。しかし、当初この生徒を送迎する者の待合室がない状況であっ

たが良心的な先生の配慮で準備室の利用が可能となったこともあった。

本日のオープニングコンサートのピアニストを迎えに行き、産文センターに到着したが、9時前であったためピアニストは控室が利用出来ず、ロビーで準備をする状況であった、行政は柔軟な対応も必要であると思う。

♡ 中学・高校時代に太鼓の演奏をするために、市内や市外の福祉施設を訪問し、耳の不自由な人とのふれあいがあった。障害者と交流するために、閉鎖的ではなく開放的な福祉施設もあるといいなと思う。

◇ 高齢化社会を迎えて、福祉施設を建設し高齢者を入所させるより、在宅ケアを出来るしくみづくりが必要と思う。はやし保存会を通じて、元気な高齢者とのふれあいが、福祉関係をするきっかけとなり、現在においてもプラスになっている。

■市長の所見

市民ニーズや目的が今何であるのかを考え、対応する必要があると思う。

例えば、学校開放は、学校が児童・生徒のための施設であり、以前は施設の安全のために学校開放をしていなかった状況にあった。今は、市民のニーズの高まりで、利用者に責任をお願いし学校を開放している。

産文センターの利用時間についての問題は、制度上の問題ではなく、運用（職員）上の問題であると思うので、今後も職員教育を充実していきたい。

サイオス付近のさんかく橋に障害者用のエレベーターを設置したが、市民の中には、何人の利用者がいるのかと問題としている人がいる。利用者数の議論ではなく、どのような障害者がこの設備を利用するかを問題にすべきと考える。

★その他についての参加者の意見

◇ アマチュア劇団で活動しているが、稽古場が少なく現在図書館西武分館で活動をしている。入間市駅前に稽古場の設置を希望する。

♡ 市民ミュージカル「入間ここから」に参加し、高校3年の時約1年間、3才～60才までの市民と茶畑ミュージカルに取り組んできた。このよう

な入間市の取組に感謝したい。

◇ オハイオ州は100万都市で若者が住みやすく、大学もある。物価も安く就職率も高い街です。しかし、車も多く交通渋滞があるので、公共交通の利用が必要と思う。

入間市で、AETとして楽しい経験をすることが出来た。

◇ 茶畑で作業をしていると、散歩をしている高齢者が声をかけてくれる。そこでのふれあいが嬉しくたくさんの人に美味しいお茶を飲んで頂きたい。

◇ 中2の時に青少年の船に参加し、今年は指導員として参加した。入間市を離れて交流することにより初めて入間市の良いところを実感するので、今後もこのような機会を増やして頂きたい。

♡ 劇団の利用出来る施設を設置して頂きたい。中学校で教育実習をした時、生徒とアリットに茶体験に行った。今後も、このように地場産業のお茶をいろいろ体験出来るような、機会を作って欲しい。

◇ 施設での訓練で感じることは、高齢者や障害者が施設に入所すると閉鎖的になり、周りとのふれあいが閉ざされる傾向となるので、私たちから仕掛けていく必要があると思う。

■全体に対する市長の所見とまとめ

『福祉について』

在宅介護は望ましい姿であるが、現在は核家族世帯が進行しており、このような状況の中で、高齢者を施設に入所して場合もあるので、一概に批判は出来ないと思う。

平成12年に開始する介護保険は、これらの問題を一部フォローする制度であるとも考えられる。

入間市は、障害者に対する施策として、総合健康管理センターに障害者・福祉センターを併設画を持っている。

『まちづくりについて』

他市の市民が喜ぶまちづくりより、まず、住んでいる市民が喜ぶ施策を展開したいと思う。

『農業について』

茶業に対する市の施策を構じるので、後継者であるみなさんも頑張ってください。

『文化行政について』

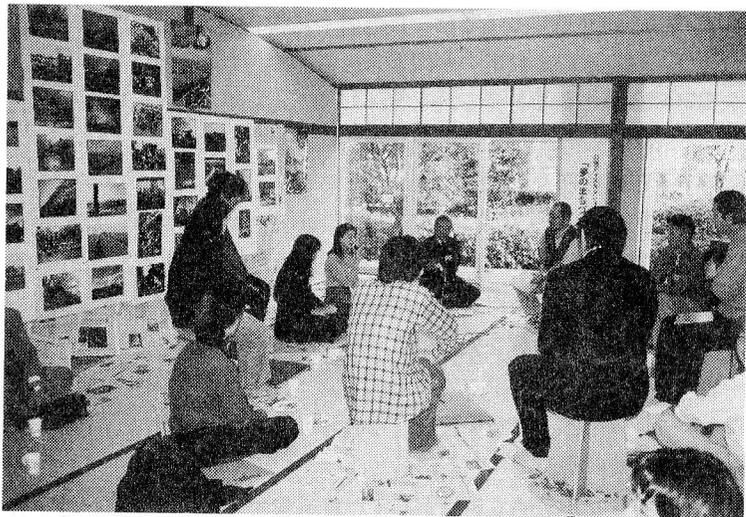
仏子にある埼玉県繊維試験所の跡地をリニューアルして文化施設として活用する計画がある。

～まとめ～

21世紀は、健康（K）・環境（K）・教育文化（K）の明るい3Kがキーワードであると思う。

今後においても、行政まかせでなく、市民参画によるまちづくりのために、若い皆さんの意見を今後も是非お願いしたい。

（司会：鈴木豊土 運営：杉山若江 記録：加藤保夫）



参考資料

フェスティバル特別企画

「かんきょう井戸端会議」

開催日時 平成10年12月6日（日） 午後2時15分～3時40分
開催場所 産業文化センター1階 和室（奥）
参加者 11人（犬塚・松崎環境審議委員含む）
参加職員 中島副参事、田代係長、関谷主任

1. あいさつ（中島副参事）

※ 以降、犬塚委員がコーディネーターとなり進行を行う。

2. 参加者自己紹介

3. 意見交換

出された意見等は以下のとおりです。

■ごみの問題について

- ・都内に工場があるが、都内ではもう廃棄物を出せないような状況である。廃棄物は都内から、外へ出ていっている。周辺地域の人がもっと勉強しておかないと、気づいた時には遅い。
- ・近隣市の市民とごみの問題を話し合っている。飯能ではプラスチックを燃やしていたり、市によって処分方法が違う。
- ・ごみの問題は、事業所など量を多く出すところから家庭へと対策を進めていくべき。
- ・ドイツではごみ処理は有料である。日本ではまだまだ進んでいないが、青梅市や静岡県の手原町のシール貼付など市民の理解を得ているところもある。
- ・ドイツのごみ処理について研修してきた。機会があるごとに話をしている。
- ・トレー回収などを行っているお店を市でPRしてほしい。
- ・引き取るものの内容などが分かるような、リサイクルショップの案内地図を作ってはどうか。
- ・リサイクルプラザには、家具などを展示して配付するコーナーができるようだ。

- ・中学生のとき、空き缶を集めて車椅子を購入する運動をしていた。後輩に引き継げるようなしくみがあるとよかった。

■ ダイオキシン問題について

- ・ダイオキシンの問題は一市でなく、広域で取り組む問題だ。
- ・ダイオキシンについて正しく知る必要がある。
- ・割り箸を燃やしても、殺菌に使われた塩素によってダイオキシンが出ることがわかり、何を燃やしてよいのか分からなくなった。
- ・銅線を使った塩素検査キットを購入して、塩素を含む物かどうかを調べている。
- ・マイカル（旧ニチイ）ではラップを店頭に置かなくなった（販売していない）。

■ 自然環境について

- ・向陽台に住んでいるが、子どもたちが緑と親しむ環境が少ない。
- ・学校では環境学習を通して、子どもたちが環境について考えるようになった。
- ・入間市はまだ自然が残っているが、子どもたちがドロだらけで遊べるような場所がない。
- ・市では環境の副読本を作っているが、先生によって取組にばらつきがある。体験型の学習をするなど、もっと環境学習を進めてほしい。
- ・宮寺に住んでいるが、農地が多い割に、昔住んでいた東京の方が虫の鳴き声がよく聞こえた。農薬のせいだろうか。
- ・残っている自然を大事にしなければいけない。身近なところから始めなければ。
- ・市内の山や川で子どもを遊ばせたい。
- ・相続によって山林や屋敷林がなくなっている。農地並みに山林の税率を下げるができないか。
- ・緑を残すのは、地主や行政だけではできない問題。市民にも負担の共有や意識の共有を図っていくべきだ。
- ・区画整理している地域の緑を残したいが、どうしたらいいか分からない。

■ その他

- ・自転車をよく利用しているが、自転車を交通機関として活用できるようにしてほしい。

- ・入間市でも、農業を通じて循環型社会のしくみづくりができないか。
〔生ごみ⇒堆肥化⇒土壌改良⇒野菜生産⇒地元市民が消費〕（山形県長井市の例）
- ・このような環境への取組を話し合う機会を、何度もしつこく開催してほしい。
- ・川越の1%節電など、目に見える目標があると分かりやすい。川越では、市から商店街へ取組が広がっている。
- ・ISO14001の取得など企業の取組が市民に見えてこない。
- ・環境問題の解決に向け、①残すもの（自然など） ②持ちこまない・置かない（廃棄物、環境によくないもの） ③出るものをどうするか（廃棄物処理） これをハッキリさせていく必要がある。

（記録：関谷佳代子）



第4回いるま生涯学習フェスティバル風景



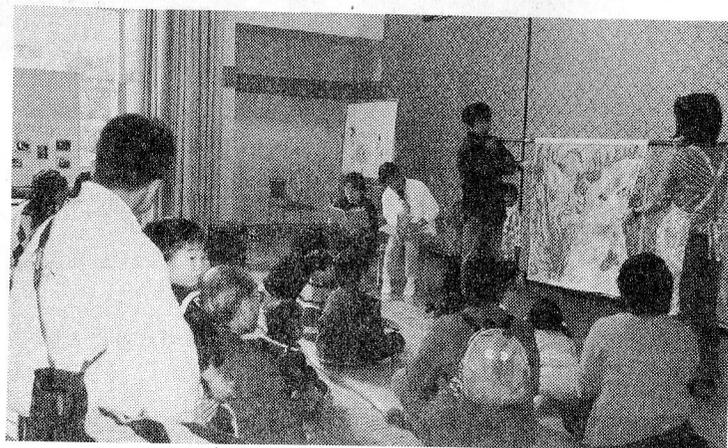
ゴミ分別コンテスト（写真奥）より注連縄づくりに人が...

人気の絵手紙



篆刻クラブ

児童センターで



1999年度事業計画

1 推進体制の整備に関する事業

- ・ 市側の推進組織及び生涯学習関係団体との意見交換の実施
- ・ 委員相互の共通理解を図るための研修会等の実施

2 生涯学習の普及・奨励に関する事業

- ・ 生涯学習を普及・奨励するためのCATV・FMラジオ番組の制作・放映

3 学習情報の提供、学習相談体制の整備に関する事業

- ・ 生涯学習情報紙「かがやく」の編集・発行
- ・ 生涯学習ガイドブックについての提言
- ・ 市内生涯学習サークル、教室情報の収集
- ・ これらにともなう関係機関、市民団体等との積極的な意見交換の実施

4 生涯学習の推進に関する事業（関係機関、団体との連携による）

- ・ 生涯学習フェスティバルの開催
- ・ 生涯学習関係機関、団体が行う事業への協力・支援

5 生涯学習に関する調査・研究

- ・ 実践的な活動によって表れてくる問題点を掘り下げた調査・研究を行なう。

入間市生涯学習をすすめる市民の会委員名簿

委員

新：平成11年度より依頼の新委員（平成11年4月現在）

No.	氏名	活動分野等
1	秋葉 英夫	生涯学習愛好家
2	岩崎 マリ子	コーラス 童謡 コンサート
3	栗原 良子	東野高校講師（現代詩）
4	下野 武司	経済、生活マネジメント 山登り
5	杉山 若江	公務員 SLHの会
6	鈴木 豊士	入間ケーブルテレビ・FM入間副社長
7	曾根 直行	入間遊び場協会
8	高木 久子	ミニコミ紙発行
9	田中 澄子	児童センター「おはなしだいすき」ボランティア 珠算検定試験委員
10	塚田とも子	詩吟教授 健康生きがいアドバイザー
11	並本 寿紘	会社員 日本テニス協会公認指導員
12	西久保夏代	入間市青少年相談員
13	長谷川正子	会議通訳・翻訳
14	増岡 達也	グラフィックデザイナー
15	松崎 仁子	環境
16	松永 輝義	幼児教育 家庭教育
17	丸山 政枝	テニス
18	三浦はるみ	入間おやこ劇場代表 埼玉県おやこ劇場連絡協議会副代表
19	宮内 直樹	都立高校教諭
20	室山 茂子	画家
21	森田美那子	入間台リサイクルグループ代表 区長会地域役員
22	柳橋 吉教	山歩き「木の芽会会員」 データベースSYS開発 ギター指導
23	山尾 聖子	杉野女子大学講師（フランス語） 二八落語会主宰

協力委員

24	鍛冶 信雄	会社員
25	庄 菊博	専修大学教授
26	山本 和人	東京家政大学教授
27	石川 経造	老人会（はなみずき会）会長
28	清水 薫	都市計画コンサルタント
29	関根 栄一	会社役員 入間茶まつり実行委員長
30	三木 清始	会社員 体育指導員 入間市社交ダンス連合会長

事務局

1	生涯学習課（生涯学習推進担当）	主幹 須田 茂
2	生涯学習課（生涯学習推進担当）	主査 諸井 和男
3	生涯学習課（生涯学習推進担当）	主事 今井 文香

秋葉 英夫

余暇を持って余している方に、いつでも楽しい人生を過ごすために、生涯学習への参加をすすめたいと思います。

岩崎 マリ子

自分に何が出来るのか？健康で楽しく、そして地域で協力し合って生活したい、と平凡に考えている者です。配食の手伝い、老人ホーム訪問等個人的に出来る限りの事は続けるつもりです。

栗原 良子

本年度は多忙なため、あまり行動ができません。定例会にはできる限り出席しますので、そのつどできることに参加することでよしとさせて下さい。

杉山 若江

私の体力、能力の範囲で出来る事は、一生懸命最善をつくします。私を必要とされる事業があれば、気持ち良く協力します。

曾根 直行

「好奇心、それが心の糧」

高木 久子

私の夢は、市民の運営による生涯学習ふれあいセンター作り。そこでは誰でも気軽に学習の為のチャンスに出会える。その拠点ができる迄は公民館の他に、市役所のロビーや学校の空き教室利用も良いだろう。実現するにはスタッフの育成も必要だが、まずは市民の学習状況の収集をし、伝えたい。

塚田 とも子

市内に居住する“健康生きがいアドバイザー”仲間6人で独自のネットワークを使い、人間市在住指導者民間情報を収集し、誰もが利用できるような「セミナー開催」「講師派遣」「サークル活動相談」等の情報提供システム作りをしています。

田中 澄子

世紀を越える時代(1999~2001)をかみしめて、地球人のひとりとして、こども達と生きる力を育くむために、Alohaの心を持って関わりたい。

西久保 夏代

今まで年に数回しか顔を見せない貴重な(?)会員でしたが、今年度は「久しぶり！」と言われない位、出席したいと思っています。

松崎 仁子

色々な事を知る楽しみを常日頃感じています。まだまだ自分が様々な人から与えてもらうことが多いのが現状。でも少しずつ今度は自分から他の人に伝えていけるようになれるといいと思っています。

松永 輝義

ひととひとのつながりを大切にして、一步一步前進したいと思っています。

宮内 直樹

人間市生涯学習に関する提言書の④学校・企業・民間との積極的な連携及び⑤情報収集・提供・交換の場の必要性の2つに関係する何か自主的活動が1つでもあれば、それにかかわっていきたくと思っています。

森田 美那子

少子高齢化の時代、今私達は何をしたらよいか？住みよい街づくりAmenity環境に役立つ事から始めよう。一例ではありますが、少ない子供達と老人会の人達のドッキング・ハイキング・ゲートボール・花植えetc…そのパイプ役になるのも一案ではないでしょうか。

柳橋 吉教

21世紀に向けて、若い(次の)世代が希望のもてる社会を実現するために、今やっておかなくてはならないことを実践しておきたいと思っています。そして高齢化社会における情報ネットワークの実現も…。

1999年 5月

編集・発行 入間市生涯学習をすすめる市民の会
入間市豊岡 1-16-1
入間市教育委員会生涯学習課内

いつも明るく...

